様式1-1

大学等名	茨城キリスト教大学
プログラム名	茨城キリスト教大学データサイエンス教育プログラム

プログラムを構成する授業科目について

① 対象となる学部・学科名称　　② 教育プログラムの修了要件：学部・学科によって、修了要件は相違する

文学部、生活科学部、看護学部

③ 修了要件

プログラムを構成する科目のうち、最低限次の4単位のパターンか6単位のパターンを卒業時までに履修し、単位を修得する。
4単位のパターン：ITビジネス論、ビジネスリサーチ
6単位のパターン：情報システム論、経営情報論、ビジネスリサーチ

必要最低単位数：4 単位　　履修必須の有無：令和8年度以降に履修必須とする計画、又は未定

④ 現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
ITビジネス論	2		○	○					
情報システム論	2		○	○					
経営情報論	2		○	○					

⑤「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
ITビジネス論	2		○	○					
経営情報論	2		○	○					

⑥「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
ITビジネス論	2		○	○					
情報システム論	2		○	○					

⑦「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
ITビジネス論	2		○	○					
情報システム論	2		○	○					
経営情報論	2		○	○					

⑧「実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
ビジネスリサーチ	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
はじめての統計学	4-1統計および数理基礎		
経営特講Ⅳ	4-2アルゴリズム基礎		
情報システム演習	4-2アルゴリズム基礎		
オペレーションズ・リサーチ	その他		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	ITビジネス、特にインターネットを用いたビジネスの特徴や社会に与えた影響、ビッグデータ、IoT,AIなどの利用からSociety 5.0と言われる社会への変革など、全体像を知る「ITビジネス論」（2回目） コンピュータの処理能力向上とデータ処理、コンピュータの各種装置であるハードウエアについての基本知識、後の各論等で登場するプログラミングやデーターベースに関する入門的な知識を得る。「情報システム論」（2回目） ネットワークの技術から規格、種類、インターネットの技術等を概説した後に、ICTの活用動向、複数技術を組み合わせたAIサービスなどを学ぶ。「情報システム論」（3回目） データから情報へ、経営資源としての情報といった面から、データ量が増加するとともに、データを起点としたものの見方、データ駆動型社会へ変わってきていること、その中でAIとの関係性を学ぶ。「経営情報論」（1回目）
	1-6	技術革新がもたらしたビジネスモデルの歴史的変遷から、AI、特に強化学習を活用した商品のレコメンデーションなど、代表的なビジネスモデルの知識を得る。「ITビジネス論」（3回目） 情報の種類や分析方法等の基本と、AIの最新技術を活用して情報をビジネス活かす分析方法に関する知識を学ぶ。「情報システム論」（11回目） 5G時代の到来とともに、更に進化するマルチメディアに関する基礎知識と、AI等の活用を含むビジネスでの活用事例を理解する。「情報システム論」（12回目） ビジネスプロセス革新の考え方と現在におけるAI等を活用した変革について学ぶ「経営情報論」（5回目）
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	電子認証や電子決済の仕組みを理解し、私達の生活で人の行動のログデータの活用事例などを理解する。「ITビジネス論」（12回目） 組織の情報処理、経営戦略と情報の関係から、組織が管理する構造化されたログデータや、オープンデータから有意義な洞察を引き出すことの重要性、データの管理等を学ぶ。「経営情報論」（2回目）
	1-3	eビジネスには様々なビジネスの形態が存在する。各ビジネスの形態を理解し、AI活用領域が広がっていることを実例とともに理解する。「ITビジネス論」（4回目） Webサイトを作成しただけでは、集客することはできない。AI等を活用しながらWebサイトへ集客、Webサイト内での行動履歴から販売を促すマーケティング手法の基本及び全体像を把握する。「ITビジネス論」（6回目） 経営情報システムの変遷を学ぶとともに、AI等を活用することによる非定型的管理業務の意思決定の自動化の可能性を学ぶ。「経営情報論」（3回目） 大規模な顧客データを分析し新製品開発、効果的なプロモーション、仮説の検証など、多様な部門で活用するといった、企業における情報処理「経営情報論」（4回目）
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の	1-4	日常生活の調べ物に欠かせない検索エンジンであるが、その成り立ちから現在まで、グルーピングやパターン発見などの技術の活用、世界各国の検索エンジン事情を踏まえて理解する。「ITビジネス論」（7回目） システム開発の流れと要件定義やシステム化計画の流れを理解する。「情報システム論」（4回目） ユーザーの接点であるインターフェースの設計及びデータベースとファイルの違い等、データベースシステムについての基礎知識を得る。「情報システム論」（5回目） 業務用アプリケーションの種類等を学び、製造業におけるアプリケーションの概要を理解するとともに、得られたデータをビジネスに利活用するための可視化を学ぶ。「情報システム論」（9回目） 販売管理システムや物流システムにおけるアプリケーションの概要、得られたデータで、顧客動向を把握し、いかにビジネスに利活用する手法を事例を学ぶ。同時に、様々な業務アプリケーションに関する基礎知識を得る。「情報システム論」（10回目）

共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-5	アンケートやSNSへの投稿、行動履歴などのデータからパターンやルール、顧客の深層心理を発見する手法であるデータマイニングなど、データサイエンスのサイクルの基本知識を理解する。「ITビジネス論」（8回目） 構築した情報システムの運用管理の基礎知識について学ぶ。システム運用に欠かせないバックアップや管理のコスト管理なども含め、データの取得・管理・加工などの基礎知識を全般的に理解する。「情報システム論」（6回目） ICT技術を活用して得られた情報を経営資源として、データ・AIを利活用する事例・基礎知識を学びつつ、マネジメント手法を理解する。「情報システム論」（7回目）

(4)活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	コンピュータウイルス、ネットワークへの外部攻撃の種類、その対策学ぶ。実際に発生した事故、企業の不祥事などの事例とともに、問題点を考察する。「ITビジネス論」(11回目) ICTのサービス種類や形態、ライフサイクルを理解するとともに、システムのセキュリティ管理に関する知識を学ぶ。「情報システム論」(8回目) 情報化社会における課題(企業活動)として個人情報保護、プライバシー保護などについて学ぶ「経営情報論」(13回目) 情報化社会における課題(情報通信技術、情報倫理)として、透明性や説明責任、正当性と倫理観などについて学ぶ「経営情報論」(14回目)
	3-2	ITビジネスにも光と影があり、様々な事件が発生している。知的財産権、不正競争防止法などの判例から、ITビジネスの法的な基礎知識を学ぶ。OECDプライバシー8原則、個人情報保護法、EUのGDPR、米加州のCCPAなど、他国の個人情報の保護についても触れる。「ITビジネス論」(13回目) ICTのサービス種類や形態、ライフサイクルを理解するとともに、システムのセキュリティ管理に関する知識を学ぶ。「情報システム論」(8回目) 情報化社会における課題(企業活動)「経営情報論」として、情報収集における原則、情報セキュリティについて学ぶ。(13回目) 情報化社会における課題(情報通信技術、情報倫理)として、システム不具合による社会的影響等について学ぶ。「経営情報論」(14回目)
(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	データの種類、度数分布、代表値、範囲と標準偏差の統計の解析方法を理解し、データを適切に読み解く力を養う。「ビジネスリサーチ」(11回目) 歪度と尖度、カイ2乗検定、T検定と分散分析の解析方法を理解し、データを適切に読み解く力を養う。「ビジネスリサーチ」(12回目)
	2-2	データを適切に説明するために、相関関係の解析方法を理解するとともに、因果関係との違い、サンプルデータを活用して、実際に相関関係図を作成し、完成図を元にどのような説明が可能か考察する。「ビジネスリサーチ」(13回目) データを適切に説明するために、単回帰の解析方法を理解する。13回同様に、サンプルデータを活用して、単回帰分析を行う。また、完成図を元にどのような説明が可能か考察する。「ビジネスリサーチ」(14回目)
	2-3	アンケート調査の実施方法の種類や企画設計など、基本的知識を学んだ後に、第7回までの知識を活かして、実際にどのようなデータを扱うかを検討し、アンケートを作成する準備をする。「ビジネスリサーチ」(8回目) Googleノートにて、実際にデータを扱うアンケートを作成する。「ビジネスリサーチ」(9回目) 集計計画のプランニング、自由回答のカテゴリー化やクロス集計とクロス分析のポイントを学び、アンケート回収後に収集したデータを扱うための作業手順を理解する。「ビジネスリサーチ」(10回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

日常生活のさまざまな分野でデータサイエンスが活用されていることを理解し、データを収集・分析し、データから価値を創出する一連の過程に関する基礎知識を身につける。

様式1-2

大学等名	茨城キリスト教大学
プログラム名	茨城キリスト教大学データサイエンス教育プログラム

プログラムを構成する授業科目について

① 対象となる学部・学科名称　　② 教育プログラムの修了要件：学部・学科によって、修了要件は相違する

経営学部

③ 修了要件

プログラムを構成する科目のうち、最低限次の6単位のパターンか8単位のパターンを卒業時までに履修し、単位を修得する。
6単位のパターン：ITビジネス論、ビジネスリサーチ、はじめての統計学
8単位のパターン：情報システム論、経営情報論、ビジネスリサーチ、はじめての統計学

必要最低単位数：6 単位　　履修必須の有無：令和8年度以降に履修必須とする計画、又は未定

④ 現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
ITビジネス論	2		○	○					
情報システム論	2		○	○					
経営情報論	2		○	○					

⑤「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
ITビジネス論	2		○	○					
経営情報論	2		○	○					

⑥「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
ITビジネス論	2		○	○					
情報システム論	2		○	○					

⑦「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
ITビジネス論	2		○	○					
情報システム論	2		○	○					
経営情報論	2		○	○					

⑧「実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
ビジネスリサーチ	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
はじめての統計学	4-1統計および数理基礎		
経営特講Ⅳ	4-2アルゴリズム基礎		
情報システム演習	4-2アルゴリズム基礎		
オペレーションズ・リサーチ	その他		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	ITビジネス、特にインターネットを用いたビジネスの特徴や社会に与えた影響、ビッグデータ、IoT,AIなどの利用からSociety 5.0と言われる社会への変革など、全体像を知る「ITビジネス論」（2回目） コンピュータの処理能力向上とデータ処理、コンピュータの各種装置であるハードウエアについての基本知識、後の各論等で登場するプログラミングやデーターベースに関する入門的な知識を得る。「情報システム論」（2回目） ネットワークの技術から規格、種類、インターネットの技術等を概説した後に、ICTの活用動向、複数技術を組み合わせたAIサービスなどを学ぶ。「情報システム論」（3回目） データから情報へ、経営資源としての情報といった面から、データ量が増加するとともに、データを起点としたものの見方、データ駆動型社会へ変わってきていること、その中でAIとの関係性を学ぶ。「経営情報論」（1回目）
	1-6	技術革新がもたらしたビジネスモデルの歴史的変遷から、AI、特に強化学習を活用した商品のレコメンデーションなど、代表的なビジネスモデルの知識を得る。「ITビジネス論」（3回目） 情報の種類や分析方法等の基本と、AIの最新技術を活用して情報をビジネス活かす分析方法に関する知識を学ぶ。「情報システム論」（11回目） 5G時代の到来とともに、更に進化するマルチメディアに関する基礎知識と、AI等の活用を含むビジネスでの活用事例を理解する。「情報システム論」（12回目） ビジネスプロセス革新の考え方と現在におけるAI等を活用した変革について学ぶ「経営情報論」（5回目）
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	電子認証や電子決済の仕組みを理解し、私達の生活で人の行動のログデータの活用事例などを理解する。「ITビジネス論」（12回目） 組織の情報処理、経営戦略と情報の関係から、組織が管理する構造化されたログデータや、オープンデータから有意義な洞察を引き出すことの重要性、データの管理等を学ぶ。「経営情報論」（2回目）
	1-3	eビジネスには様々なビジネスの形態が存在する。各ビジネスの形態を理解し、AI活用領域が広がっていることを実例とともに理解する。「ITビジネス論」（4回目） Webサイトを作成しただけでは、集客することはできない。AI等を活用しながらWebサイトへ集客、Webサイト内での行動履歴から販売を促すマーケティング手法の基本及び全体像を把握する。「ITビジネス論」（6回目） 経営情報システムの変遷を学ぶとともに、AI等を活用することによる非定型的管理業務の意思決定の自動化の可能性を学ぶ。「経営情報論」（3回目） 大規模な顧客データを分析し新製品開発、効果的なプロモーション、仮説の検証など、多様な部門で活用するといった、企業における情報処理「経営情報論」（4回目）
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の	1-4	日常生活の調べ物に欠かせない検索エンジンであるが、その成り立ちから現在まで、グルーピングやパターン発見などの技術の活用、世界各国の検索エンジン事情を踏まえて理解する。「ITビジネス論」（7回目） システム開発の流れと要件定義やシステム化計画の流れを理解する。「情報システム論」（4回目） ユーザーの接点であるインターフェースの設計及びデータベースとファイルの違い等、データベースシステムについての基礎知識を得る。「情報システム論」（5回目） 業務用アプリケーションの種類等を学び、製造業におけるアプリケーションの概要を理解するとともに、得られたデータをビジネスに利活用するための可視化を学ぶ。「情報システム論」（9回目） 販売管理システムや物流システムにおけるアプリケーションの概要、得られたデータで、顧客動向を把握し、いかにビジネスに利活用する手法を事例を学ぶ。同時に、様々な業務アプリケーションに関する基礎知識を得る。「情報システム論」（10回目）

共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-5	アンケートやSNSへの投稿、行動履歴などのデータからパターンやルール、顧客の深層心理を発見する手法であるデータマイニングなど、データサイエンスのサイクルの基本知識を理解する。「ITビジネス論」（8回目） 構築した情報システムの運用管理の基礎知識について学ぶ。システム運用に欠かせないバックアップや管理のコスト管理なども含め、データの取得・管理・加工などの基礎知識を全般的に理解する。「情報システム論」（6回目） ICT技術を活用して得られた情報を経営資源として、データ・AIを利活用する事例・基礎知識を学びつつ、マネジメント手法を理解する。「情報システム論」（7回目）
（4）活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	コンピュータウイルス、ネットワークへの外部攻撃の種類、その対策学ぶ。実際に発生した事故、企業の不祥事などの事例とともに、問題点を考察する。「ITビジネス論」（11回目） ICTのサービス種類や形態、ライフサイクルを理解するとともに、システムのセキュリティ管理に関する知識を学ぶ。「情報システム論」（8回目） 情報化社会における課題（企業活動）として個人情報保護、プライバシー保護などについて学ぶ「経営情報論」（13回目） 情報化社会における課題（情報通信技術、情報倫理）として、透明性や説明責任、正当性と倫理観などについて学ぶ「経営情報論」（14回目）
	3-2	ITビジネスにも光と影があり、様々な事件が発生している。知的財産権、不正競争防止法などの判例から、ITビジネスの法的な基礎知識を学ぶ。OECDプライバシー8原則、個人情報保護法、EUのGDPR、米加州のCCPAなど、他国の個人情報の保護についても触れる。「ITビジネス論」（13回目） ICTのサービス種類や形態、ライフサイクルを理解するとともに、システムのセキュリティ管理に関する知識を学ぶ。「情報システム論」（8回目） 情報化社会における課題（企業活動）「経営情報論」として、情報収集における原則、情報セキュリティについて学ぶ。（13回目） 情報化社会における課題（情報通信技術、情報倫理）として、システム不具合による社会的影響等について学ぶ。「経営情報論」（14回目）
（5）実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	データの種類、度数分布、代表値、範囲と標準偏差の統計の解析方法を理解し、データを適切に読み解く力を養う。「ビジネスリサーチ」（11回目） 歪度と尖度、カイ2乗検定、T検定と分散分析の解析方法を理解し、データを適切に読み解く力を養う。「ビジネスリサーチ」（12回目）
	2-2	データを適切に説明するために、相関関係の解析方法を理解するとともに、因果関係との違い、サンプルデータを活用して、実際に相関関係図を作成し、完成図を元にどのような説明が可能か考察する。「ビジネスリサーチ」（13回目） データを適切に説明するために、単回帰の解析方法を理解する。13回同様に、サンプルデータを活用して、単回帰分析を行う。また、完成図を元にどのような説明が可能か考察する。「ビジネスリサーチ」（14回目）
	2-3	アンケート調査の実施方法の種類や企画設計など、基本的知識を学んだ後に、第7回までの知識を活かして、実際にどのようなデータを扱うかを検討し、アンケートを作成する準備をする。「ビジネスリサーチ」（8回目） Googleノートにて、実際にデータを扱うアンケートを作成する。「ビジネスリサーチ」（9回目） 集計計画のプランニング、自由回答のカテゴリー化やクロス集計とクロス分析のポイントを学び、アンケート回収後に収集したデータを扱うための作業手順を理解する。「ビジネスリサーチ」（10回目）

⑪ プログラムの学修成果（学生等が身に付けられる能力等）

日常生活のさまざまな分野でデータサイエンスが活用されていることを理解し、データを収集・分析し、データから価値を創出する一連の過程に関する基礎知識を身につける。また、データから有意義な洞察を引き出すための統計的手法を身につける。

様式2

大学等名 茨城キリスト教大学

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和4 年度

②履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和4年度						令和3年度						令和2年度						令和元年度						平成30年度						平成29年度						履修者数合計	履修率
				履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数				
				合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性		
文学部	1,126	270	1,160	8			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			8	1%
生活科学部	620	140	570	21			5			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			21	4%
看護学部	363	80	320	0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	0%
経営学部	315	60	250	94			4			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			94	38%
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!
合　計	2,424	550	2,300	123	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	123	5%

様式3

大学等名　茨城キリスト教大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数　（常勤）　118　人（非常勤）　229　人

② プログラムの授業を教えている教員数　5　人

③ プログラムの運営責任者

（責任者名）村上美保子　（役職名）学務部長

④ プログラムを改善・進化させるための体制（委員会・組織等）

データサイエンス小委員会

（責任者名）米岡英治　（役職名）経営学部教授

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

茨城キリスト教大学教育課程の編成・運用・改善に関する規程

⑥ 体制の目的

教育課程運用の全学的な調整を図るための組織として教務委員会を設置している。
教務委員会の下部組織としてデータサイエンス教育小委員会を設置する。
データサイエンス小委員会は本学のデータサイエンス教育の改善に向け、以下の活動を行う。
・データサイエンス教育に必要なカリキュラムの研究
・本学のデータサイエンス教育の学修データの調査・分析
・データサイエンス教育の改善内容の教務委員会への提言

教務委員会はデータサイエンス小委員会からの提言内容をもとに、全学カリキュラムの調整を行いプログラムの改善を行う。

⑦ 具体的な構成員

教務委員会は、学務部長と各学科および全学教養課程センターが選出する教務委員で構成される。この教務委員会に対しデータサイエンス教育に関わるカリキュラム構成や履修に向けた改善を定言する組織として、データサイエンス小委員会を設置している。
データサイエンス小委員会の構成員としては、全学の中から数理、データサイエンス、AI等に詳しい教員を指名している。

データサイエンス小委員会
経営学部　教授　米岡英治（代表）
文学部　准教授　佐々木隆宏
生活科学部　教授　有澤正樹
生活科学部　准教授　國見充展
経営学部　教授　佐藤和明

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和4年度実績	5%	令和5年度予定	8%	令和6年度予定	15%
令和7年度予定	25%	令和8年度予定	30%	収容定員（名）	2,300

具体的な計画

・本学では令和4年度からプログラムを開始しているが、主要科目は2年次以降の開講である一方、「はじめての統計学」に関しては1年次開講科目である。「はじめての統計学」に関しては、プログラム実施に向けた内容の調整は必要なかったことから、令和3年度入学者から対応するプログラムとしている。
・令和4年度から新入生・在学生ガイダンス実施時にプログラムに関しての説明を実施している。
・今後受講者数の推移を確認し、必要に応じて令和6年度に、指定科目の開講数、開講時間の調整を行い、学生が受講しやすい環境を構築する。
・基礎的学習項目に関して令和6年度から全学教養課程科目としての実施予定である。具体的には、現在の教養科目区分「ICT」を「データサイエンス」に変更して、関連科目を設定する。データサイエンス」分野に接ししやすくするとともに、プログラムの履修に関して見直しを行う。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

・本学のデータサイエンス教育プログラムは、経営学部経営学科の科目を中心に構成している。経営学部経営学科以外の学生が受講しやすくするために、令和4年度から開講時間の調整を行なっている。
また、経営学部経営学科の学生に関しては「はじめての統計学」が、修了のための必須科目となっていることから、学科必須科目等と開講時間が可能な限り重なることがないように調整している。
・前述のように、今後の受講生の推移によっては関連科目の開講数の調整するとともに、全学教養科目での学修をプログラムに組み込むことを検討している。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

・令和4年度には新入生・在学生ガイダンス実施時にプログラムに関しての説明を実施した。
・令和5年度からは全学生に配布する「履修登録の手引き」に、プログラムの意義、学修内容、プログラム修了の要件等を掲載し、受講を促している。
・今後、各学科の学びに連動させた説明を各学科のガイダンスで行う。
・さらに入学を検討している高校生等に向け、大学HPでプログラム内容等に関する情報開示を行なっている。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

・データサイエンス小委員会での相談等の受付を行なっている。これは、共用のメールアドレスを用意し、学内のLMSにてアナウンスしている。
・学務部等でプログラム内容を周知し、学生の履修相談への対応、修了証発行のための申請対応を行なっている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

・本学ではMicrosoft Teamsを活用して、各科目で学修内容の予習・復習、科目内での小テスト、資料の共有などを行なっており、授業時間外でも学修内容の確認ができるようにしている。また、学修内容に対する質問も、この仕組みの中で行うことが可能である。
・前述の通り、プログラム全体に関する質問に関してはデータサイエンス小委員会で受け付けるようにしている。

様式4

大学等名 茨城キリスト教大学

自己点検・評価について

①プログラムの自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）

授業改善委員会

（責任者名）櫻井由美子　（役職名）生活科学部教授

②自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	・学務部において本プログラムの履修生の数、学部学科毎の数を把握することができる。令和4年度から本プログラムを開始したが、修了要件を満たした学生が生活科学部から5名、経営学部から4名居る。 ・授業改善委員会の下で、前期、後期の授業期間の終わりに、受講生に対して本学のディプロマ・ポリシーに基づいた授業改善アンケートを行なっている。この授業改善アンケートの結果を、本教育プログラムの評価・改善に活用している。 ・一方で、この授業評価アンケートは令和4年度から新たな形式に変更しており、今後調査内容について再検討するとともに、実施形式についても調整を進める。
学修成果	・授業改善アンケートでは学修に取り組む態度に関する質問をおこなっており、この回答を見ると、「大いに向上した」「向上した」が70%を超えている。このことからデータサイエンスに対して積極的に学ぶ意識づけができていると考える。 ・この結果はデータサイエンス小委員会と共有しており、本教育プログラムの評価・改善に活用している。 ・さらに本学では令和5年度から、大学教育を通じて身につけた基礎力の測定・育成するプログラムを導入した。今後、このアセスメントプログラムでの測定結果も参考にして学修成果の可視化につなげる予定である。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	・授業改善アンケートでは、科目履修によって得られた知識・技能、思考力・表現力・判断力について調査している。科目ごとにばらつきがあり、知識・技能が「大いに向上した」「向上した」が90%を超えている科目がある一方で、75%となっている科目がある。思考力・表現力・判断力についても約90%の科目と約65%の科目がある。全体的に理解ができていると判断できるが、学生の理解を向上させる取り組みが必要である。 ・また、以前よりも分かるようになったという一方で、難しいという意見もあり、学修に対するサポートを充実させる必要がある。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	・授業改善アンケートでは、受講に際して良かった点や悪かった点などに関する自由記述を求めており、後輩学生や他の学生への推奨に生かしている。 ・学科の専門科目の理解に役立ったという意見もあり、学科科目との関連性からも他の学生への推奨に生かす。 ・今後、授業改善アンケートで後輩学生や他の学生への推奨度を確認する項目について検討し、詳細な確認ができるようにする。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	・本プログラムでの履修者数、履修率を向上させるために、教務委員会やデータサイエンス小委員会との会議を実施している。 ・本プログラムは令和4年度から全学でのプログラムとして開始している。初年度は新入生および在学生の履修ガイダンスで説明を行い、多くの学部学科からの履修を推進した。その結果、初年度から、修了要件を満たした学生を複数の学部学科から出すことができている。 ・令和5年度は「履修登録の手引き」にプログラムの内容を掲載したが、今後も引き続き新入生および在学生の履修ガイダンスでの説明が必要と考えている。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本プログラムは、令和4年度から令和3年度以降の入学者を対象に開始したため、履修者は令和5年度は3年次生である。今後卒業後の進路や活躍状況を把握することになる。本学にはキャリア支援センターがあり、学生の就職先等の把握が可能である。今後、活躍状況や企業評価を調査し把握する仕組みを構築していく予定である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	・本学経営学部経営学科では茨城県経営者協会とのつながりがあり、今後必要となる人材像について話を伺っているが、分析力に基づき、データを駆使し、デジタル社会を支える人材を育成してほしいとの要望があり、本プログラムとの親和性が高いと考えている。また、茨城県においてもDXイノベーションを推進しており、本学での取り組みについて説明を行ない意見をいただいた。 ・今後、これらの組織との定期的な打ち合わせの場において意見を収集するとともに、データサイエンス小委員会においてプログラムの改善に活用する。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	本学には4学部7学科あり、それぞれの専門分野の学びが中心となる。一方で数理・データサイエンス・AI教育におけるモデルカリキュラムリテラシーレベルは、どの分野でも必要な知識となっていく。まず本プログラムを推奨する広報では、それぞれの分野で実際にどのような活用が行われているかについて説明し、データサイエンスに対する好奇心を促している。次に本プログラムにおける科目履修では、自らが今後どのように関わっていくことになるかを考えるように工夫している。今後は学部学科の専門科目との関連について明確にしていく。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	本学では、前期、後期の授業期間の終わりに、受講生に対して授業評価アンケートを行い、自身の学びや成長にどのくらい貢献したかを確認するとともに、自由記述による意見を求めている。結果は担当教員にフィードバックされ、教員は次回以降の授業改善に役立てている。授業改善委員会はデータサイエンス小委員会に対して、プログラムの科目の全体傾向についての情報を提供し、分かりやすい授業に向けての見直しを検討している。

科目コード	41088	科目ナンバリング	MA20C04K	主な使用言語	日本語			
授業名（英文）	IT ビジネス論（IT Business Studies）				担当者	佐藤　和明		
基本情報	年次	2	単位数	2	授業形式	講義	AL 要素	16. 振り返り用紙と応答
基本情報	曜時	木曜 3 限	関連資格		履修可能学科・専攻	E Pe Pc C W F N M		
授業の概要	IT を経営に活かしてビジネスを展開するための基礎知識を売るために、IT ビジネスの仕組み、用語を中心に入門的な知識を得る講義内容である。特に、身近なインターネットを活用したビジネスモデルを中心に、AI 活用の現状から今後の展望なども盛り込んだ内容となる。 注意点として、教材として、主にネット教材である「google デジタルワークショップ」を活用して進めるため、各自、自己の名前で利用できる Google アカウントは必須となる。また、シラバスに記載されている各回テーマの一部は、ネット教材の進捗により、後半にまとめて講義する場合もある。							
キーワード	e ビジネス、デジタルコンテンツ、Web マーケティング、検索エンジン、データマイニング、情報セキュリティ							

学位授与方針との関係						
知識・技能	到達目標（知識・技能）	IT ビジネス及びインターネットビジネスに関する基本知識が、各回の復習小テストで8割程度の内容で解答することができる。	評価方法（知識・技能）	各回小テスト	評価割合（知識・技能）	40%
思考力・判断力・表現力	到達目標（思・判・表）	IT ビジネス、インターネットビジネスの概要を理解し、記述式の期末テスト問題に 7 割程度、解答することができる。	評価方法（思・判・表）	期末テスト	評価割合（思・判・表）	60%
学修に主体的に取り組む態度	基本的に評価対象としないが、目に余る私語、他学生もくしは講義全体に支障ある行為等は、厳重な注意とともに、減点の対象となる。				評価割合（学修態度）	0%
実践的ボランタリズム	基本的に評価対象としないが、日々のボランティア活動等が講義内容と合致する場合には、大いに「思考力・判断力・表現力」への評価として加点する。				評価割合（ボランタリズム）	0%
公正性	基本的に評価対象としないが、不当な行為があった場合には、厳重注意、減点の対象となる。				評価割合（公正性）	0%
その他	特になし				評価割合（その他）	0%

授業計画	第1回　オリエンテーション 講義の概要説明と各回の概要説明をします。 第2回　IT ビジネスとは IT ビジネス、特にインターネットを用いたビジネスの特徴や社会に与えた影響など、全体像を知る。 第3回　IT ビジネスのビジネスモデル 技術革新がもたらしたビジネスモデルの歴史的変遷、代表的なビジネスモデルの知識を得る。 第4回　e ビジネスの基礎知識 e ビジネスには様々なビジネスの形態が存在する。各ビジネスの形態を理解し、実例とともに e ビジネスの概要を理解する。 第5回　デジタルコンテンツ・ビジネス 現在、私達はインターネットを介して、様々なデジタルコンテンツを享受している。デジタルコンテンツの配信ビジネスを中心に全体像を知る。 第6回　Web マーケティング入門 Web サイトを作成しただけでは、集客することはできない。Web サイトへ集客を促すマーケティング手法の基本及び全体像を把握する。 第7回　検索エンジンのしくみ 日常生活の調べ物に欠かせいない検索エンジンであるが、その成り立ちから現在まで、そして世界各国の検索エンジン事情を踏まえて理解する。 第8回　消費者の動向を知るデータマイニング アンケートや SNS への投稿、行動履歴などのデータからパターンやルール、顧客の深層心理を発見する手法である。データマイニングの基本知識を理解する。 第9回　IT ビジネスに必要なインフラ IT ビジネス、特にインターネットビジネスに必要なインフラの概要を把握する。 第 10 回　IT ビジネスの情報セキュリティ IT ビジネスで守るべき情報や漏洩のパターンを事例とともに理解する。 第 11 回　IT ビジネスの危機管理

	コンピューターウイルス対策の必要性と対策、ネット上で発生した企業の不祥事など事例とともに、問題点を考察する。 第 12 回　電子認証と電子決済 電子認証や電子決済の仕組みを理解し、私達の生活での活用事例などを理解する。 第 13 回　IT ビジネスの法と倫理 IT ビジネスにも光と影があり、様々な事件が発生している。知的財産件、個人情報保護法、不正競争防止法などの判例から、IT ビジネスの法的な基礎知識を学ぶ。 第 14 回　進化する IT ビジネスの今後 AI と技術発展でさらに進化する IT ビジネスの実用化前の事例などを含め今後の展望に関する知識を得る。 第 15 回　総括 総復習とともに、テストに関する説明を実施する。
使用テキスト	各回、参考資料の PDF を配布する。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	事後学習としては、各講義を配布物とともに、復習してください。事前学習としては、次回講義のキーワード、もしくは参考となる Web サイトや文献を指定するので、それらを読み込んでください。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、学務部等に連絡し、相談してください。
授業時間外の連絡手段	初回に伝えるオフィスアワーで対応します。
留意事項	課題については IC−UNIPA の課題機能を利用して提出物を確認後、授業内で口頭でフィードバックを行います。

科目コード	41087	科目ナンバリング	MA20C03K	主な使用言語	日本語			
授業名（英文）	情報システム論（Information Systems）			担当者	佐藤　和明			
基本情報	年次 2	単位数	2	授業形式	講義	AL 要素	16. 振り返り用紙と応答	
基本情報	曜時	木曜 3 限	関連資格		履修可能学科・専攻	E Pe Pc C W F N M		
授業の概要	情報システムは、企業経営に必須のツールであり、実務的には ICT の情報システムを活用し、会社経営に活かすものである。本講義では、情報システムの基礎知識を学びつつ、中央職業能力開発協会の「経営情報システム3級」への合格レベルの知識を得ることを目的とする。 具体的には、ICT の活用、システム化の施策と計画及び設計、システムの運用管理、業務アプリケーションの選定から活用、そして得られた情報の活用などである。講義の後半には、復習とともに、HTML や情報処理の実習も行う。							
キーワード	ネットワーク技術、インターネット技術、システム設計、情報システム運用管理、セキュリティ							

学位授与方針との関係						
知識・技能	到達目標（知識・技能）	情報システムに関する基本知識が、各回の復習小テストで8割程度の内容で解答することができる。	評価方法（知識・技能）	各回小テスト	評価割合（知識・技能）	40%
思考力・判断力・表現力	到達目標（思・判・表）	経営情報システム3級、IT パスポートのテクノロジ系などの過去問から出題する。7 割程度で解答することを合格ラインとする。	評価方法（思・判・表）	期末テスト	評価割合（思・判・表）	60%
学修に主体的に取り組む態度	基本的に評価対象としないが、目に余る私語、他学生もくしは講義全体に支障ある行為等は、厳重な注意とともに、減点の対象となる。				評価割合（学修態度）	0%
実践的ボランタリズム	基本的に評価対象としないが、日々のボランティア活動等が講義内容と合致する場合には、大いに「思考力・判断力・表現力」への評価として加点する				評価割合（ボランタリズム）	0%
公正性	基本的に評価対象としないが、不当な行為があった場合には、厳重注意、減点の対象となる。				評価割合（公正性）	0%
その他	特になし				評価割合（その他）	0%

授業計画	第1回　オリエンテーション 講義の概要説明と各回の概要説明をします。本講義は「経営情報システム3級」への合格レベルの知識を持つことを目的としているため、試験の概要についても説明します。 第2回　コンピュータシステムと情報システムの基礎 コンピュータの各種装置であるハードウエアについての基本知識と後の各論等で登場するプログラミングやデーターベースに関する入門的な知識を得る。 第3回　ネットワークとインターネットの基礎 ネットワークの技術から規格、種類、インターネットの技術等を概説した後に、ICT の活用動向を知る。 第4回　システム設計の基礎（1） システム開発を2回にわけて講義する。前半は、システム開発の流れと要件定義やシステム化計画の流れを理解する。 第5回　システム設計の基礎（2） 後半ではユーザーの接点であるインターフェースの設計及びデータベースとファイルの違い等、データベースシステムについての基礎知識を得る。 第6回　情報システムの運用と管理 構築した情報システムの運用管理の基礎知識について学ぶ。システム運用に欠かせないバックアップや管理のコスト管理などの基礎知識を全般的に理解する。 第7回　情報システムの資源管理 ICT 技術を活用して得られた情報を経営資源として、活用する基礎知識を学びつつ、マネジメント手法を理解する。 第8回　ICT サービスの利用提供とセキュリティ管理 ICT のサービス種類や形態、ライフサイクルを理解するとともに、システムのセキュリティ管理に関する知識を学ぶ。 第9回　業務アプリケーションの選定と製造業のアプリケーション 業務用アプリケーションの種類等を学び、製造業におけるアプリケーションの概要を理解する。 第 10 回　各業界のアプリケーションの基礎知識 販売管理システムや物流システムにおけるアプリケーションのほか、様々な業務アプリケーションに関する知識を

	得る。 第 11 回　情報活用の基礎（1） 情報活用の基礎知識を2回にわけて講義する。情報の種類や分析方法等の基本と情報をビジネス活かす分析方法に関する知識を学ぶ。 第 12 回　情報活用の基礎（2） 後半では、5G 時代の到来とともに、更に進化するマルチメディアに関する基礎知識とビジネスでの活用事例を理解する。 第 13 回　HTML 概説と総復習 Web ページを制作する HTML 言語の基礎知識とブログ等をマネジメントする CMS に関する知識を学び、12 回までの総復習する。 第 14 回　システム演習と総復習 総復習とともに、情報システムを用いて利用できるサービスを紹介。一部のサービスを実際に利用し、今後の大学での学習に活かす手法を学ぶ。 第 15 回　総括 総復習とともに、テストに関する説明を実施する。
使用テキスト	各回、参考資料の PDF を配布する。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	事後学習としては、各講義を配布物とともに、復習してください。事前学習としては、次回講義のキーワード、もしくは参考となる Web サイトや文献を指定するので、それらを読み込んでください。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、学務部等に連絡し、相談してください。
授業時間外の連絡手段	初回に伝えるオフィスアワーで対応します。
留意事項	特になし

科目コード	41019	科目ナンバリング	MA30C02K	主な使用言語	日本語			
授業名（英文）	経営情報論（Management Information）				担当者	米岡　英治		
基本情報	年次	3	単位数	2	授業形式	講義	AL 要素	17 発問と回答
基本情報	曜時	木曜 3 限	関連資格		履修可能学科・専攻	E Pe Pc C W F N M		
授業の概要	情報化社会になり社会環境が大きく速く変化している状況において、近年ますますデータの活用が重要になっていることを学ぶ。また、データ活用に対応する情報技術や企業の変革についても理解を深めると同時に、データ活用の基本となる IT システムの仕組みを理解する。 企業の組織、業務、戦略はさまざまであり、このような情報システムを作ればよいというものはありません。しかし、現在の情報システムを見直し再構築する上での共通した考え方、注意すべき点などはあります。これらを学ぶとともに、企業経営においての情報の活用について、意思決定、システム連携、マーケティング等における活用領域の広がりの観点から学びます。 また、情報活用における注意点、現代社会においてデータ活用に対する倫理観などについて学ぶ（セキュリティ、プライバシー、忘れられる権利、価値観の対立など）。							
キーワード	経営情報システム、コミュニケーション、情報管理、企業間連携、ICT、情報倫理、情報公開							

学位授与方針との関係						
知識・技能	到達目標（知識・技能）	①経営情報と経営戦略、組織論の関係について基本的な考え方、②組織構造、企業間関係、情報公開などの変化、③情報管理、情報倫理、情報資源活用の重要性について理解し、解答することができる。	評価方法（知識・技能）	学期末筆記試験	評価割合（知識・技能）	80%
思考力・判断力・表現力	到達目標（思・判・表）	経営情報システムの今日的利用について、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。	評価方法（思・判・表）	学期末筆記試験およびリフレクションノート	評価割合（思・判・表）	20%
学修に主体的に取り組む態度	授業中の質疑応答の内容から、「思考力・判断力・表現力」とあわせて評価する。また、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験やリフレクションノートの記述内容により認められる場合は、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。				評価割合（学修態度）	0%

実践的ボランタリズム	直接的な評価対象とはしない。	評価割合（ボランタリズム）	0%
公正性	直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。	評価割合（公正性）	0%
その他	特になし	評価割合（その他）	0%

授業計画	【第 01 回】授業概要、データから情報へ、経営資源としての情報 【第 02 回】組織の情報処理、経営戦略と情報 【第 03 回】経営情報システムの変遷 【第 04 回】企業における情報処理 【第 05 回】ビジネスプロセス革新 【第 06 回】情報処理技術の活用（1）情報技術基盤・ネットワークとその活用 【第 07 回】情報処理技術の活用（2）組織コミュニケーション 【第 08 回】インターネットビジネス戦略 【第 09 回】情報管理・活用（1） 情報化投資、組織体制、IT ガバナンス 【第 10 回】情報管理・活用（2） 企業内情報共有・ナレッジマネジメント 【第 11 回】企業間連携（組織構造・組織間関係の変化） 【第 12 回】持たざる情報化 【第 13 回】情報化社会における課題（1）企業活動 【第 14 回】情報化社会における課題（2）情報通信技術、情報倫理 【第 15 回】情報公開（CSR-ESG,非財務情報開示）、全体振り返り 定期試験
使用テキスト	資料をそのつど配布します。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	配布資料について復習するとともに、新聞・雑誌などで企業動向に注意しておくこと。 参考文献として次のものを推薦する。 宮川公男・上田豊編著，2014『経営情報システム』第 4 版 中央経済社 遠山 暁・村田 潔・岸 眞理子 (著) 2015『経営情報論 新版補訂』有斐閣 遠山暁・村田潔・古賀広志（2021）『現代経営情報論』有斐閣
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については講義時間に案内する。

留意事項	リフレクションノートに対するフィードバックを授業時間に口頭で行います。

科目コード	41008	科目ナンバリング	MA20C05K	主な使用言語	日本語			
授業名（英文）	ビジネスリサーチ（Business Research Methods）				担当者	佐藤　和明		
基本情報	年次 2	単位数	2	授業形式	講義	AL 要素	10,資料調査課題 16.振り返り用紙と応答	
基本情報	曜時	木曜 2 限	関連資格		履修可能学科・専攻	M		
授業の概要	アンケートは、消費者の満足度調査だけでなく、新製品開発のアイデアなど、様々な目的で実施されます。本講義では、アンケートの種類から、企画、目的設定、そして実施や分析などの一連の流れを理解し、基礎知識を理解します。また、実際に Google フォームを使って、アンケートを作成し、分析する。 アンケートを回答したことはあるが、アンケートの作成は初めてという学生も多くいると思われるため、履修者のペースに合わせて講義を進めていく。							
キーワード	アンケート、統計分析							

学位授与方針との関係						
知識・技能	到達目標（知識・技能）	アンケートの手法や統計調査の復習となる小テストを毎回実施する。各回の復習小テストで8割程度の内容で回答することができる。	評価方法（知識・技能）	各回小テスト	評価割合（知識・技能）	40%
思考力・判断力・表現力	到達目標（思・判・表）	自ら実施したアンケートに対する統計分析ができる。	評価方法（思・判・表）	期末テスト	評価割合（思・判・表）	60%
学修に主体的に取り組む態度	基本的に評価対象としないが、目に余る私語、他学生もくしは講義全体に支障ある行為等は、厳重な注意とともに、減点の対象となる。				評価割合（学修態度）	0%
実践的ボランタリズム	基本的に評価対象としないが、日々のボランティア活動等が講義内容と合致する場合には、大いに「思考力・判断力・表現力」への評価として加点する。				評価割合（ボランタリズム）	0%
公正性	基本的に評価対象としないが、不当な行為があった場合には、厳重注意、減点の対象となる。				評価割合（公正性）	0%
その他	特になし				評価割合（その他）	0%

授業計画	第1回　ガイダンス 講義内容の説明と流れ、必要事項を説明する。 第2回　アンケート調査と種類 アンケート調査には、様々な種類がある。アンケート調査の概要と種類について学ぶ。 第3回　アンケート調査のプランニング（1） アンケート調査企画の流れを学んだ後に、各論に入る。前半では、アンケート調査の企画設定、課題の検討、調査対象者の定義などを理解する。 第4回　アンケート調査のプランニング（2） 後半では、アンケートの実査方法の検討、回答率を高めるための工夫やポイントなどを知る。 第5回　アンケート調査票の作成（1） アンケート調査のプランニングで学んだことから、実際にアンケートの作成方法を2回に分けて、講義する。質問と回答のタイプ、調査対象を測る4つの尺度などを学ぶ。 第6回　アンケート調査票の作成（2） 前半に続きアンケート票の作成方法を理解する。実際に Google フォームでアンケートを実施する下地を作成する。 第7回　サンプリングと調査のポイント アンケートの対象の選定からサンプリングの方法を理解し、各種アンケートの調査ポイントを学ぶ。 第8回　インターネットアンケートの調査手法（1） アンケート調査の実施方法の種類や企画設計など、基本的知識を学んだ後に、第7回までの知識を活かして、実際にアンケートを作成する準備をする。 第9回　インターネットアンケートの調査手法（2） Google ノートにて、実際にアンケートを作成する。 第 10 回　データの集計方法とポイント 集計計画のプランニング、自由回答のカテゴリー化やクロス集計とクロス分析のポイントを学び、アンケート回収後の作業の手順を理解する。 第 11 回　統計の解析とポイント（1）

	度数分布、代表値、範囲と標準偏差の統計の解析方法を理解する。 第 12 回　統計の解析とポイント（2） 歪度と尖度、カイ 2 乗検定、T 検定と分散分析の解析方法を理解する。 第 13 回　統計の解析とポイント（3） 相関関係の解析方法を理解する。 第 14 回　統計の解析とポイント（4） 単回帰の解析方法を理解する 第 15 回　総括 今までの復習、Google フォームでのアンケート結果から、導き出される解析結果をレポートとする。レポートの提出方法と質疑応答をおこなう。
使用テキスト	各回、参考資料の PDF を配布する。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	事後学習としては、各講義を配布物とともに、復習してください。事前学習としては、次回講義のキーワード、もしくは参考となる Web サイトや文献を指定するので、それらを読み込んでください。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、学務部等に連絡し、相談してください。
授業時間外の連絡手段	初回に伝えるオフィスアワーで対応します。
留意事項	統計分析については、履修者のペースに合わせ、ゆっくり進めますので、その都度、進捗状況、理解度を確認して、内容と進捗を考えます。 課題については IC−UNIPA の課題機能を利用して提出物を確認後、授業内で口頭でフィードバックを行います。

科目コード	10152	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語			
授業名（英文）	はじめての統計学（Introduction to Statistics）			担当者	有澤　正樹			
基本情報	年次	1	単位数	2	授業形式	講義	AL 要素	18.その他
基本情報	曜時	金曜 3 限	関連資格		履修可能学科・専攻	E Pe Pc C W F N M		
授業の概要	**【授業形態ガイドライン・レベル III、レベル II】遠隔授業（Teams による同時双方向型）** 統計学とは、アンケートや観測によって採取された大量のデータの中に存在する法則性を扱う科学的分析方法であり、自然科学、社会科学、人文科学等の分野で広く利用されている。 例えば教育の分野においては、大勢の学生、生徒、児童に関するデータ（試験の点数かも知れないし、身長や体重などの健康に関するデータ、児童の心理を調べるための調査データかも知れない）を客観的（科学的）に扱っていく上で、統計学は必要不可欠である。 また経営の分野においては、データの分析に多変量解析（複数のデータを統計的に分析し、その関係性を明らかにする方法）がよく用いられるが、多変量解析を理解するためには、統計学の基礎を十分に理解していなければならない。 さらに介護福祉や栄養管理の現場においても、日々の変化や成果を客観的に評価し、報告することは大切な仕事のひとつであり、客観的な評価のために統計処理は必要不可欠といえるだろう。 このように、どのような領域においても、データを客観的・科学的に分析・評価するためには、統計学が必要不可欠といえるのである。そこでここでは、どのような領域においても共通する統計学の基礎について、演習（教科書の例題と同様の簡単な課題）を取り入れながら解説する。							
キーワード	統計学、分布の特性値（平均、分散、標準偏差…）、確率、分布（二項分布、正規分布、t 分布、 χ^2 分布）、母数の推定、仮説検定							

学位授与方針との関係						
知識・技能	到達目標（知識・技能）	統計学の分析概念を理解し、基本的な統計処理を行うことができる。	評価方法（知識・技能）	課題、定期試験	評価割合（知識・技能）	86%
思考力・判断力・表現力	到達目標（思・判・表）	「知識・技能」と合わせて評価する。	評価方法（思・判・表）	課題、定期試験	評価割合（思・判・表）	0%
学修に主体的に取り組む態度	章末毎に実施する簡単な課題に積極的に取り組み、遅滞なく課題を提出する。（課題がすべて提出されていれば、最低でも 14 点が成績に加算される。）				評価割合（学修態度）	14%
実践的ボランタリズム	直接的な評価対象とはしない。				評価割合（ボランタリズム）	0%

公正性	直接的な評価対象とはしないが、課題作成において不正行為があった場合は、減点や失格の対象となるので注意すること。	評価割合（公正性）	0%
その他	特になし	評価割合（その他）	0%

授業計画	【第 01 回】統計学はどのような学問か 【第 02 回】標本分布の特性値 1（標本抽出、度数分布表、ヒストグラム）、課題 1 【第 03 回】標本分布の特性値 2（平均、分散、標準偏差など）、課題 2 【第 04 回】確率と確率分布（二項分布、ポアソン分布） 【第 05 回】復習および課題 3 【第 06 回】一様分布と正規分布 【第 07 回】復習および課題 4 【第 08 回】標本平均の分布と母平均の推定 【第 09 回】復習および課題 5 【第 10 回】*t* 分布と母平均の推定 【第 11 回】復習および課題 6 【第 12 回】χ^2 分布と母標準偏差の推定 【第 13 回】復習および課題 7 【第 14 回】仮説検定 【第 15 回】復習および課題 8 定期試験
使用テキスト	鳥居泰彦 『はじめての統計学』 日本経済新聞社、1994 年
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	章末に実施する課題が復習のポイントとなっているので、採点返却時の解説と、返却後研究室前に常時掲示する模範解答により理解を深めること。 なお、上記の「課題、定期試験の評価割合 86%」の内訳は(1)課題 50%＋定期試験 50%による総合評価と(2)定期試験 100%のみによる評価を行い、評価の高い方を最終評価とするので、定期試験に不安を覚える方は課題をしっかり抑えておくことが、また、課題が思わしくなかった方は定期試験で挽回することが重要である。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	Teams の当該科目チーム内（投稿）、またはメール（maa@icc.ac.jp）、もしくはオフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については UNIPA で確認してください。
留意事項	数学が不得意な者は、四則演算、分数 など、受講までに各自で簡単な復習を行っておくこと。平方根（ルート）計算ができる電卓を持参すること。 **数学が苦手であっても理解できるように、できるだけ丁寧にわかりやすく解説する。** なお、**定期試験は教科書・ノート・課題プリント・電卓の持ち込みが可能である。**

情報技術基礎の旧科目名称

経営特講IVは令和５ 年度より情報技術基礎へ名称変更

科目コード	41082	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語		
授業名（英文）	経営特講 IV（Topics in Management IV）			担当者	三ツ堀　裕太		
基本情報	年次 2	単位数	2	授業形式	講義	AL 要素	17. 発問と回答
基本情報	曜時	金曜 5 限	関連資格		履修可能学科・専攻		EPePcCWFNM
授業の概要	「あなたはパソコンを使えますか？」 このような問いに、あなたならどのように答えますか？ 目的に応じてコンピュータを使いこなす能力は、現代社会においてはもはや必須のスキルと言えます。 加えて、今や IT に関する知識は技術職だけでなく経営や管理に携わる人にとっても欠かせない時代となっています。 こういった知識を証明するための国家資格として、情報処理技術者試験があります。 IT パスポート試験はその入り口であり、上位試験の基礎とも言えるものです。 本講義では「IT パスポート試験対策」を通じ、コンピュータに関する広い知識を身に付けることを目指します。						
キーワード	IT パスポート　合格　過去問						

学位授与方針との関係						
知識・技能	到達目標（知識・技能）	「IT パスポート試験」の合格水準に相当する知識を身に付ける。	評価方法（知識・技能）	ミニテスト 期末テスト COVID-19 対策に伴い、期末テストは期末レポートへ変更する可能性があります。	評価割合（知識・技能）	100%
思考力・判断力・表現力	到達目標（思・判・表）	直接的な評価対象とはしません。	評価方法（思・判・表）	特になし	評価割合（思・判・表）	0%
学修に主体的に取り組む態度	直接的な評価対象とはしません。				評価割合（学修態度）	0%
実践的ボランタリズム	直接的な評価対象とはしません。				評価割合（ボランタリズム）	0%
公正性	直接的な評価対象とはしません。				評価割合（公正性）	0%

その他	特になし	評価割合（その他）	0%

授業計画	第1回　情報処理技術者試験の概要 第2回　基礎学習(1)ハードウェア1 第3回　基礎学習(2)ハードウェア2 第4回　基礎学習(3)ソフトウェア 第5回　基礎学習(4)システム構成 第6回　基礎学習(5)ネットワーク 第7回　基礎学習(6)セキュリティ 1 第8回　基礎学習(7)セキュリティ 2 第9回　基礎学習(8)アルゴリズムとプログラミング 第10回　基礎学習(9)企業活動と法務 1 第11回　基礎学習(10)企業活動と法務 2 第12回　基礎学習(11)経営戦略とシステム戦略 1 第13回　基礎学習(12)経営戦略とシステム戦略 2 第14回　基礎学習(13)マネジメント 1 第15回　基礎学習(14)マネジメント 2 定期試験
使用テキスト	栢木　厚　著『令和 04 年　イメージ＆クレバー方式でよくわかる　栢木先生の IT パスポート教室』(技術評論社　出版)
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	実際に IT パスポート試験を受験したい方は、下記の書籍も併せて購入されることを推奨します。 五十嵐　聡　著『令和 04 年【上半期】IT パスポート　パーフェクトラーニング過去問題集』(技術評論社　出版) (”令和 04 年【上半期】”に限らず購入段階における最新版を推奨)
障がいのある履修者への対応	自力で受講できることを条件に受け入れます。詳細は学務部等にご確認下さい。
授業時間外の連絡手段	電子メールおよび SNS での連絡手段を提供します。
留意事項	IT パスポート試験は出題範囲が非常に広いため、授業の限られた時間内だけではカバーしきれません。 試験合格に向けて、自主的に学習する姿勢を期待します。

科目コード	41128	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語			
授業名（英文）	情報システム演習（Information Systems Seminar）			担当者	米岡　英治			
基本情報	年次	2	単位数	2	授業形式	講義	AL 要素	03 実験・実技、体験、05 即時応答、16 振り返り用紙と応答
基本情報	曜時	木曜 2 限	関連資格		履修可能学科・専攻	E Pe Pc C W F N M		
授業の概要	企業は多くの情報を管理・活用しています。他企業や顧客から情報を入手するとともに、顧客への情報発信も行っています。これらの仕組みの開発は、一部の専門技術を持った人達だけの業務ではありません。情報を使う側の業務担当者が開発に携わることも多くなっています。今後 DX（デジタルトランスフォーメーション）が進展していく中で対応していくためには、さまざまな事柄をつなぎ合わせ、ICT を活用していく必要があります。 本科目では、業務の自動化として注目されている RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）の利用、CMS（コンテンツマネジメントシステム）を活用した Web サイト作成について学びます。 また、担当教員の実務経験から考えられる内容も踏まえて、今後の進展に関する考察をしていきます。							
キーワード	情報システム、情報管理、DX、RPA、CMS							

学位授与方針との関係						
知識・技能	到達目標（知識・技能）	DX 時代においてさまざまな情報管理や情報発信に対しての変革が必要なことを理解し、今後どのような取り組みが必要か検討することができる。	評価方法（知識・技能）	リフレクションノート、レポート	評価割合（知識・技能）	40%
思考力・判断力・表現力	到達目標（思・判・表）	授業で扱った内容に基づいて、Web サイト、ロボットを作成できる。	評価方法（思・判・表）	課題作成	評価割合（思・判・表）	60%
学修に主体的に取り組む態度	Web サイト、ロボットの作成状況と作成内容から、「思考力・判断力・表現力」とあわせて評価する。 他の学生の学修に支障をきたすような迷惑行為がみられた場合には、厳重注意および減点の対象とする。				評価割合（学修態度）	0%
実践的ボランタリズム	直接的な評価対象とはしない。				評価割合（ボランタリズム）	0%

公正性	直接的な評価対象とはしない。ただし作成した Web サイトなどに人権侵害・差別的など著しく公正性を欠く内容があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。	評価割合（公正性）	0%
その他	特になし	評価割合（その他）	0%

授業計画	【第 01 回】イントロダクション　授業概要、情報システムとは 【第 02 回】DX（デジタルトランスフォーメーション）（1） 【第 03 回】DX（デジタルトランスフォーメーション）（2） 【第 04 回】RPA 基礎（1）RPA 概要、環境設定 【第 05 回】RPA 基礎（2）メモ帳操作、ブラウザ操作ロボット作成 【第 06 回】RPA 基礎（3）Excel 操作ロボット作成 【第 07 回】RPA 基礎（4）応用ロボット作成 【第 08 回】CMS 基礎（1）Web サイト作成概要（CMS）、環境設定 【第 09 回】CMS 基礎（2）管理設定、Web サイトテーマ設定、基本構成 【第 10 回】CMS 基礎（3）記事構成、設定 【第 11 回】CMS 基礎（4）投稿記事作成、応用の検討 【第 12 回】応用（1）RPA 出力との連携 【第 13 回】応用（2）連携の検討1 【第 14 回】応用（2）連携の検討2 【第 15 回】振り返り
使用テキスト	資料をそのつど配布します。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	配布資料について復習するとともに、新聞・雑誌などで企業動向に注意しておくこと。 自身の PC に環境を構築することで、授業時間外においても動作確認等を行うことが望ましい。 講義において参考資料を指示します。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については講義時間に案内する。
留意事項	課題作成に対するフィードバックを授業時間に口頭で行います。 ノート PC（Windows）の準備が可能な者は、持参すること。 Mac のノート PC 利用者は事前に相談すること。

科目コード	41129	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名（英文）	オペレーションズ・リサーチ（Operations Research）			担当者	長谷川　博康

基本情報	年次	3	単位数	2	授業形式	講義	AL 要素	17 発問と回答 03 実験・実技・体験

基本情報	曜時	木曜 3 限	関連資格		履修可能学科・専攻	E Pe Pc C W F N M

授業の概要	オペレーショオンズ・リサーチとは、意思決定のための数学モデルです。その代表的なものとして、輸送問題、割当て問題、巡回セールスマン問題、在庫管理問題、階層化意思決定法（AHP）問題があります。この講義では、オペレーショオンズ・リサーチの簡単な説明からはじめ、これらの問題を実際に解けるようになることを目的としています。また、このオペレーションズ・リサーチによる意思決定の方法や問題解決の方法につては、Excel のアドオンツールである ”ソルバー” のアドオン機能を使って解くことができます。 この講義では、オペレーションズ・リサーチについての考え方を説明し、意思決定方法や問題解決について Excel の機能を使って解決する方法を理解します。
キーワード	オペレーションズ・リサーチ、線形計画法、動的計画法、Excel ソルバー

学位授与方針との関係						
知識・技能	到達目標（知識・技能）	オペレーショオンズ・リサーチを理解する。実際に Excel のアドオンツール、”ソルバー”を使用して解いてみる。復習の小テストで回答することができる。	評価方法（知識・技能）	小テスト	評価割合（知識・技能）	60%
思考力・判断力・表現力	到達目標（思・判・表）	オペレーショオンズ・リサーチを理解する。実際に Excel を使って OR の問題を解くことができるようになる。	評価方法（思・判・表）	期末テスト	評価割合（思・判・表）	30%
学修に主体的に取り組む態度	理解を確認したり深めるために、授業中に発問する。良い回答があった場合には評価する。				評価割合（学修態度）	10%
実践的ボランタリズム	授業内での他の受講者へのサポートや理解を深めるための質問、協力は評価として加点する。				評価割合（ボランタリズム）	0%

公正性	基本的に評価対象としないが、不当な行為があった場合には、厳重注意、減点の対象となる。	評価割合（公正性）	0%
その他	特になし	評価割合（その他）	0%

授業計画	第 01 回：講義の説明と内容 第 02 回：意思決定とは 第 03 回：線形計画法問題 第 04 回：動的計画法問題 第 05 回：データの収集と整理 第 06 回：データ分析と予測 第 07 回：在庫の考え方 第 08 回：生産の考え方 第 09 回：輸送の考え方 第 10 回：割り当ての計画 第 11 回：発送の方法 第 12 回：AHP の利用 第 13 回：採算性の検討 第 14 回：OR 実施の手順と仕組み 第 15 回：全体のまとめとテストについて
使用テキスト	毎回資料を配布します。その他に、「問題解決のためのオペレーションズ・リサーチ入門 Excel の活用と実務的例題」日本評論社　高井英造　真鍋龍太郎　著　も使用します。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	各回授業を受けた後に各回配布した資料の確認と授業内容の復習をしてください。 オペレーショオンズ・リサーチの理解を深めるため、最適化理論の事例として次の参考文献を挙げておきます。「Python ではじめる数量最適化　ケーススタディでモデリングのスキルを身につけよう」オーム社　岩永二郎　石原響太　西村直樹　田中一樹　著
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワーに研究室で対応します。 メールでも対応しますので、連絡先は学務部に確認して下さい。
留意事項	特になし

2022（令和４）年度

履　修　要　覧

茨城キリスト教大学

2．授業科目、単位数および履修規程
〔経営学部〕

履修に関しては次のことに注意すること。

1．単位数を囲む○印は必修科目を示す。
2．単位数を囲む□印は選択必修科目を示す。
3．各授業科目は、それぞれ固有の科目コードを持つ。
4．**1年間に登録できる単位数は、卒業要件に関わる科目が47単位未満で、総単位数は56単位以内とする。ただし、前学年度のGPAが3.0以上の学生は、卒業要件科目については50単位未満、総単位数は60単位以内とする。**

＜経営学科＞

(1) 全学教養科目

2021年度～

学科目	科目コード	科目明細	科目ナンバリング	授業科目	授業形式	授業時間数	単位数	配置年次	修得単位
建学の精神	10050	1	LA11A01K	キリスト教の精神と文化Ⅰ	講義	30	②	1	4単位必修
	10051	1	LA12A01K	キリスト教の精神と文化Ⅱ	講義	30	②	1	
	10052	1	LA33C01K	キリスト教の精神と文化Ⅲ	講義	30	2	3	
外国語	10054	1	LA11B02E	英語コミュニケーションⅠ	演習	30	1	1	8単位必修（うち英語4単位以上）英語以外の外国語を含める場合は同一言語2単位または同一言語4単位とする
	10055	1	LA12B02E	英語コミュニケーションⅡ	演習	30	1	1	
	10056	1	LA23B02E	英語コミュニケーションⅢ	演習	30	1	2	
	10057	1	LA24B02E	英語コミュニケーションⅣ	演習	30	1	2	
	10058	1	LA11B01E	総合英語Ⅰ	演習	30	1	1	
	10059	1	LA12B01E	総合英語Ⅱ	演習	30	1	1	
	10060	1	LA23B01E	総合英語Ⅲ	演習	30	1	2	
	10061	1	LA24B01E	総合英語Ⅳ	演習	30	1	2	
	10062	1	LA35B01E	総合英語Ⅴ	演習	30	1	3	
	10063	1	LA36B01E	総合英語Ⅵ	演習	30	1	3	
	10065	1	LA11B03E	ドイツ語ⅠA	演習	30	1	1	
	10066	1	LA12B03E	ドイツ語ⅡA	演習	30	1	1	
	10067	1	LA11B04E	ドイツ語ⅠB	演習	30	1	1	
	10068	1	LA12B04E	ドイツ語ⅡB	演習	30	1	1	
	10069	1	LA23B03E	ドイツ語ⅢA	演習	30	1	2	
	10070	1	LA24B03E	ドイツ語ⅣA	演習	30	1	2	
	10071	1	LA23B04E	ドイツ語ⅢB	演習	30	1	2	
	10072	1	LA24B04E	ドイツ語ⅣB	演習	30	1	2	
	10073	1	LA11B05E	フランス語ⅠA	演習	30	1	1	
	10074	1	LA12B05E	フランス語ⅡA	演習	30	1	1	
	10075	1	LA11B06E	フランス語ⅠB	演習	30	1	1	
	10076	1	LA12B06E	フランス語ⅡB	演習	30	1	1	
	10077	1	LA23B05E	フランス語ⅢA	演習	30	1	2	
	10078	1	LA24B05E	フランス語ⅣA	演習	30	1	2	
	10079	1	LA23B06E	フランス語ⅢB	演習	30	1	2	
	10080	1	LA24B06E	フランス語ⅣB	演習	30	1	2	
	10081	1	LA11B07E	中国語ⅠA	演習	30	1	1	
	10082	1	LA12B07E	中国語ⅡA	演習	30	1	1	
	10083	1	LA11B08E	中国語ⅠB	演習	30	1	1	
	10084	1	LA12B08E	中国語ⅡB	演習	30	1	1	
	10085	1	LA23B07E	中国語ⅢA	演習	30	1	2	
	10086	1	LA24B07E	中国語ⅣA	演習	30	1	2	
	10087	1	LA23B08E	中国語ⅢB	演習	30	1	2	
	10088	1	LA24B08E	中国語ⅣB	演習	30	1	2	
	10089	1	LA11B09E	コリアンⅠA	演習	30	1	1	

学科目	科目コード	科目明細	科目ナンバリング	授業科目	授業形式	授業時間数	単位数	配置年次	修得単位
外国語	10090	1	LA12B09E	コリアンⅡA	演習	30	1	1	
	10091	1	LA11B10E	コリアンⅠB	演習	30	1	1	
	10092	1	LA12B10E	コリアンⅡB	演習	30	1	1	
	10093	1	LA23B09E	コリアンⅢA	演習	30	1	2	
	10094	1	LA24B09E	コリアンⅣA	演習	30	1	2	
	10095	1	LA23B10E	コリアンⅢB	演習	30	1	2	
	10096	1	LA24B10E	コリアンⅣB	演習	30	1	2	
	10097	1	LA10B02E	その他の外国語A	演習	30	1	1	
	10098	1	LA10B03E	その他の外国語B	演習	30	1	1	
	10099	1	LA10B04E	その他の外国語C	演習	30	1	1	
	10100	1	LA10B05E	その他の外国語D	演習	30	1	1	
	10101	1	LA11B11E	外国語としての日本語ⅠA	演習	30	1	1	外国において中等教育を受けた学生にのみ適用
	10102	1	LA12B11E	外国語としての日本語ⅡA	演習	30	1	1	
	10103	1	LA11B12E	外国語としての日本語ⅠB	演習	30	1	1	
	10104	1	LA12B12E	外国語としての日本語ⅡB	演習	30	1	1	
	10105	1	LA23B11E	外国語としての日本語ⅢA	演習	30	1	2	
	10106	1	LA24B11E	外国語としての日本語ⅣA	演習	30	1	2	
	10107	1	LA23B12E	外国語としての日本語ⅢB	演習	30	1	2	
	10108	1	LA24B12E	外国語としての日本語ⅣB	演習	30	1	2	
健康スポーツ	10155	1	LA11B14J	体育実技Ⅰ	実技	30	1	1～4	
	10160	1	LA12B14J	体育実技ⅡA	実技	30	1	1～4	
	10161	1	LA12B15J	体育実技ⅡB	実技	30	1	1～4	1単位必修
	10029	1	LA10B08K	健康科学	講義	30	2	1～4	
	10030	1	LA10B09K	運動と健康	講義	30	2	1～4	
留学	10031	1	LA10C01J	海外語学研修A	実習	120	4	1	
	10032	1	LA20C01J	海外語学研修B	実習	120	4	2	
	10033	1	LA10C02J	海外語学研修C	実習	60	2	1	
	10034	1	LA20C02J	海外語学研修D	実習	60	2	2	
	10048	1	LA10C03J	海外文化研修	実習	60	2	1～4	
	10035	2	LA10C04J	異文化体験	実習	60	2	1～4	
	10049	1	LA10C05K	留学生のための日本学基礎	講義	30	2	1～4	
人文	10110	1	LA10A02K	人文科学の考え方	講義	30	②	1	必修6単位を含め18単位以上選択
	10111	1	LA10C06K	哲学とは何か	講義	30	2	1～4	
	10112	1	LA10C07K	いのちを考える	講義	30	2	1～4	
	10113	1	LA10C08K	ライフステージの心理学	講義	30	2	1～4	
	10114	1	LA10C09K	人生と儀礼	講義	30	2	1～4	
	10115	1	LA10C10K	カウンセリングとメンタルヘルス	講義	30	2	1～4	
	10116	1	LA10C11K	対人関係の心理学	講義	30	2	1～4	
	10117	1	LA10C12K	歴史に学ぶ	講義	30	2	1～4	
	10118	1	LA10C13K	日本社会の歴史	講義	30	2	1～4	
	10119	1	LA10C14K	ことばと人間	講義	30	2	1～4	
	10120	1	LA10C15K	文学を楽しむ	講義	30	2	1～4	
	10121	1	LA10C16K	美と芸術の歴史	講義	30	2	1～4	
	10122	1	LA10C17K	ビジュアルアーツと現代	講義	30	2	1～4	
	10123	1	LA10C18K	本を読む（人文）	講義	30	2	1～4	
社会	10124	1	LA10A03K	社会科学の考え方	講義	30	②	1	
	10036	1	LA10C19K	日本国憲法	講義	30	2	1～4	
	10125	1	LA10C20K	法律と暮らし	講義	30	2	1～4	
	10126	1	LA10C21K	現代社会と政治学	講義	30	2	1～4	
	10127	1	LA10C22K	グローバリゼーションとは何か	講義	30	2	1～4	
	10128	1	LA10C23K	現代社会と経済学	講義	30	2	1～4	
	10129	1	LA10C24K	資本主義の現在	講義	30	2	1～4	
	10130	1	LA10C25K	国際経済と暮らし	講義	30	2	1～4	
	10131	1	LA10C26K	人権から見た教育と労働	講義	30	2	1～4	
	10132	1	LA10C27K	働くということ	講義	30	2	1～4	
	10133	1	LA10C28K	共に生きる	講義	30	2	1～4	
	10134	1	LA10C29K	ジェンダーの現在	講義	30	2	1～4	
	10135	1	LA10C30K	家族を考える	講義	30	2	1～4	
	10136	1	LA10C31K	お金と税金のはなし	講義	30	2	1～4	
	10137	1	LA10C32K	ICTと暮らし	講義	30	2	1～4	
	10138	1	LA10C33K	メディアとつきあう	講義	30	2	1～4	
	10139	1	LA10C34K	時事問題研究	講義	30	2	1～4	
	10140	1	LA10C35K	地域を学ぶ	講義	30	2	1～4	

学科目	科目コード	科目明細	科目ナンバリング	授業科目	授業形式	授業時間数	単位数	配置年次	修得単位
社会	10141	1	LA10C36J	コミュニティで学ぶ	実習	60	2	1～4	
	10142	1	LA10C37K	本を読む（社会）	講義	30	2	1～4	
自然	10143	1	LA10A04K	自然科学の考え方	講義	30	②	1	
	10144	1	LA10C38K	生命科学の基礎知識	講義	30	2	1～4	
	10145	1	LA10C39K	生命倫理	講義	30	2	1～4	
	10146	1	LA10C40K	健康とは何か	講義	30	2	1～4	
	10147	1	LA10C41K	食といのち	講義	30	2	1～4	
	10148	1	LA10C42K	地球環境と人間	講義	30	2	1～4	
	10149	1	LA10C43K	資源エネルギーと人間	講義	30	2	1～4	
	10150	1	LA10C44K	災害と人間	講義	30	2	1～4	
	10151	1	LA10C45K	科学技術の現在	講義	30	2	1～4	
	10152	1	LA10C46K	はじめての統計学	講義	30	2	1～4	
	10153	1	LA10C47K	宇宙のはなし	講義	30	2	1～4	
	10154	1	LA10C48K	本を読む（自然）	講義	30	2	1～4	
ICT	10044	1	LA11B13E	コンピュータ基礎Ⅰ	演習	30	2	1	4単位必修
	10045	1	LA12B13E	コンピュータ基礎Ⅱ	演習	30	2	1	
	10046	2	LA20B01E	コンピュータ実習	演習	30	2	2	
総合演習	10156	1	LA30C01E	教養総合演習	演習	30	2	3	
特別授業	10157	1	LA10C49K	教養特別講義	講義	30	2	1～4	
	10158	1	LA10C50E	教養特別演習	演習	30	2	1～4	
	10159	1	LA10C51J	教養特別実習	実習	60	2	1～4	

≪ドイツ語・フランス語・中国語・コリアンの履修に関する注意事項≫

原則

1）（A系列の科目）ⅠAの単位を修得していなければⅡAを履修することはできない。ⅡAの単位を修得していればⅢAまたはⅣAを履修することができる。

2）（B系列の科目）ⅠBの単位を修得していなければⅡBを履修することはできない。ⅡAまたはⅡBの単位を修得していればⅢBまたはⅣBを履修することができる。

3）ⅢBおよびⅣBについては、授業の内容が異なり、かつ担当教員の了解を得ることを前提として重複履修を認める。重複の回数はそれぞれ2度を上限とする（初回を含めて合計3度）。

4）外国において中等教育を受けた学生、編転入・再入学の学生、休学後に復学した学生、留学を予定する学生等、特殊な事情のある学生は、学務部で相談すること。

≪ドイツ語・フランス語・中国語・コリアンの履修に関する規程≫

経営学部経営学科の学生は、外国語科目8単位を次の1）または2）または3）の方法で履修すること。

1）英語4単位＋英語以外の同一外国語4単位。
　英語以外の外国語については、ドイツ語・フランス語・中国語・コリアンの各言語からひとつを選択し、1年次前期においてⅠAとⅠBを、および1年次後期においてⅡAとⅡBを履修する。（以上1年次4単位）。

2）英語6単位＋英語以外の同一外国語2単位。
　英語以外の外国語については、ドイツ語・フランス語・中国語・コリアンの各言語からひとつを選択し、1年次前期において（ⅠAとⅠB）を、または1年次の通年にわたって（ⅠAとⅡA）もしくは（ⅠBとⅡB）を履修する。（以上1年次2単位）。

3）英語を8単位修得し、それ以外の外国語については上記の「原則」にしたがって自由に履修すること。

＜この規程は2020（令和2）年度入学生から適用される。＞

≪健康スポーツ科目「体育実技」の履修に関する規程≫

1．体育実技Ⅰの単位を修得していなければ、体育実技ⅡAまたは体育実技ⅡBを履修することはできない。

＜この規程は2021（令和3）年度入学生から適用される。＞

(2) 学科科目〔経営学科〕

基幹科目20単位、専門科目60単位のうち、専門基礎科目６単位以上、専門科目52単位以上、学科科目合計80単位以上

2021年度～

学科目			科目コード	科目明細	科目ナンバリング	授業科目	授業形式	授業時間数	単位数	配置年次	修得単位・備考	他学科・他学部科目履修の可否 E	Pe	Pc	C	W	F	N
基幹科目			41001	1	MA11A01K	経営学入門Ⅰ	講義	30	②	1	20単位必修	○	○	○	○	○	○	○
			41002	1	MA12A01K	経営学入門Ⅱ	講義	30	②	1		○	○	○	○	○	○	○
			41126	1	MA10A01E	リーダーシップ基礎演習	演習	30	②	1		×	×	×	×	×	×	×
			41009	1	MA11A02E	リーダーシップ演習Ⅰ	演習	30	②	1		×	×	×	×	×	×	×
			41012	2	MA22A01E	リーダーシップ演習Ⅱ	演習	30	②	2		×	×	×	×	×	×	×
			41010	2	MA23A01E	リーダーシップ演習Ⅲ	演習	30	②	2		×	×	×	×	×	×	×
			41110	1	MA31A01E	経営演習Ⅰ	演習	30	②	3		×	×	×	×	×	×	×
			41111	1	MA32A01E	経営演習Ⅱ	演習	30	②	3		×	×	×	×	×	×	×
			41112	1	MA43A01E	経営演習Ⅲ	演習	30	②	4		×	×	×	×	×	×	×
			41113	1	MA44A01E	経営演習Ⅳ	演習	30	②	4		×	×	×	×	×	×	×
専門基礎科目			40001	2	MA10B01K	公共哲学	講義	30	2	1～2	6単位以上選択	○	○	○	○	○	○	○
			40006	2	MA10B02K	政治学	講義	30	2	1～2		×	×	×	×	×	×	×
			41114	1	MA10B03K	行政学	講義	30	2	1～2		○	○	○	○	○	○	○
			40008	1	MA10B04K	コミュニケーションと言語学	講義	30	2	1～2		○	○	○	○	○	○	○
			40011	2	MA10B05K	倫理学	講義	30	2	1～2		×	×	×	×	×	×	×
			40017	1	MA10B06K	法学	講義	30	2	1～2		×	×	×	×	×	×	×
			40018	1	MA10B07K	社会学	講義	30	2	1～2		×	×	×	×	×	×	×
			40020	2	MA10B08K	哲学の歴史	講義	30	2	1～2		○	○	○	○	○	○	○
			40023	2	MA10B09K	宗教学	講義	30	2	1～2		○	○	○	○	○	○	○
			41084	2	MA10B10K	社会経済史	講義	30	2	1～2		○	○	○	○	○	○	○
			41072	2	MA10B11K	会社法Ⅰ	講義	30	2	1～2		○	○	○	○	○	○	○
			41073	2	MA10B12K	会社法Ⅱ	講義	30	2	1～2		○	○	○	○	○	○	○
			41121	1	MA10B13K	日本史A	講義	30	2	1～2		×	×	×	×	×	×	×
			41122	1	MA10B14K	日本史B	講義	30	2	1～2		×	×	×	×	×	×	×
			41123	1	MA10B15K	西洋史	講義	30	2	1～2		×	×	×	×	×	×	×
			41124	1	MA10B16K	東洋史	講義	30	2	1～2		×	×	×	×	×	×	×
			41115	1	MA11C01K	人文地理学Ⅰ	講義	30	2	1		×	×	×	×	×	×	×
			41116	1	MA12C01K	人文地理学Ⅱ	講義	30	2	1		×	×	×	×	×	×	×
			41117	1	MA21C01K	自然地理学Ⅰ	講義	30	2	2		×	×	×	×	×	×	×
			41118	1	MA22C01K	自然地理学Ⅱ	講義	30	2	2		×	×	×	×	×	×	×
			41119	1	MA20C01K	地誌	講義	30	2	2		×	×	×	×	×	×	×
			41125	1	MA20C02K	発達心理学	講義	30	2	2		×	×	×	×	×	×	×
専門科目	マネジメントコース	戦略・マネジメント系	41005	3	MA20B02K	経営学総論*	講義	30	[2]	2	52単位以上選択	○	○	○	○	○	○	○
			41016	2	MA21C06K	経営戦略論Ⅰ	講義	30	2	2		○	○	○	○	○	○	○
			41017	1	MA32C01K	経営戦略論Ⅱ	講義	30	2	3		○	○	○	○	○	○	○
			41018	2	MA30C01K	経営組織論	講義	30	2	3		○	○	○	○	○	○	○
			41020	2	MA20C02K	経営管理論	講義	30	2	2		○	○	○	○	○	○	○
			41019	3	MA30C02K	経営情報論	講義	30	2	3		○	○	○	○	○	○	○
			41127	1	MA30C20K	情報技術基礎	講義	30	2	3		○	○	○	○	○	○	○
			41087	2	MA20C03K	情報システム論	講義	30	2	2		○	○	○	○	○	○	○
			41128	1	MA20C23E	情報システム演習	演習	30	2	2		○	○	○	○	○	○	○
			41088	2	MA20C04K	ITビジネス論	講義	30	2	2		○	○	○	○	○	○	○
			41008	1	MA20C05K	ビジネスリサーチ	講義	30	2	2		○	○	○	○	○	○	○
			41129	1	MA30C21K	オペレーションズ・リサーチ	講義	30	2	3		○	○	○	○	○	○	○
			41026	3	MA30C03K	イノベーションマネジメント	講義	30	2	3		○	○	○	○	○	○	○
			41027	2	MA30C04K	ビジネスプランニング	講義	30	2	3		○	○	○	○	○	○	○
			41031	2	MA30C05K	ベンチャービジネス論	講義	30	2	3		○	○	○	○	○	○	○
			41022	1	MA21C02K	人材マネジメント論Ⅰ	講義	30	2	2		○	○	○	○	○	○	○
			41023	1	MA22C03K	人材マネジメント論Ⅱ	講義	30	2	2		○	○	○	○	○	○	○
			41090	1	MA30C06K	国際経営論	講義	30	2	3		○	○	○	○	○	○	○
			41028	3	MA20C06K	経営史	講義	30	2	2		○	○	○	○	○	○	○
			41071	2	MA20C07K	英語で学ぶ経営学入門	講義	30	2	2		○	○	○	○	○	○	○
			41007	1	MA10C01K	キャリアデザイン	講義	30	2	1		×	×	×	×	×	×	×
		マーケティング系	41041	1	MA21B02K	マーケティング論Ⅰ*	講義	30	[2]	2		○	○	○	○	○	○	○
			41042	1	MA22C03K	マーケティング論Ⅱ	講義	30	2	2		○	○	○	○	○	○	○
			41043	2	MA20C08K	流通システム論	講義	30	2	2		○	○	○	○	○	○	○

学科目			科目コード	科目明細	科目ナンバリング	授業科目	授業形式	授業時間数	単位数	配置年次	修得単位・備考	他学科・他学部科目履修の可否						
												E	Pe	Pc	C	W	F	N
専門科目	マネジメントコース	マーケティング系	41044	3	MA20C09K	流通経営論	講義	30	2	2		○	○	○	○	○	○	○
			41045	1	MA30C07K	マーケティング戦略論	講義	30	2	3		○	○	○	○	○	○	○
			41094	1	MA31C02K	消費者行動論Ⅰ	講義	30	2	3		○	○	○	○	○	○	○
			41095	1	MA32C02K	消費者行動論Ⅱ	講義	30	2	3		○	○	○	○	○	○	○
			41130	1	MA20C24K	マーケティングコミュニケーション論	講義	30	2	2		○	○	○	○	○	○	○
			41046	1	MA30C09K	サービス・マーケティング論	講義	30	2	3		○	○	○	○	○	○	○
			41100	2	MA20C25K	マーケティング調査	講義	30	2	2		○	○	○	○	○	○	○
	会計・ファイナンスコース	会計・ファイナンス系	41047	3	MA10C02K	入門簿記論	講義	30	2	1		○	○	○	○	○	○	○
			41048	3	MA10C03K	基礎簿記論	講義	30	2	1		○	○	○	○	○	○	○
			41049	3	MA20C10K	応用簿記論	講義	30	2	2		○	○	○	○	○	○	○
			41050	3	MA20C11K	会社簿記論	講義	30	2	2		○	○	○	○	○	○	○
			41003	1	MA11B01K	会計学入門Ⅰ*	講義	30	[2]	1		○	○	○	○	○	○	○
			41004	1	MA12C02K	会計学入門Ⅱ	講義	30	2	1		○	○	○	○	○	○	○
			41051	1	MA21C03K	財務会計論Ⅰ	講義	30	2	2		○	○	○	○	○	○	○
			41052	1	MA22C04K	財務会計論Ⅱ	講義	30	2	2		○	○	○	○	○	○	○
			41059	3	MA30C11K	経営分析論	講義	30	2	3		○	○	○	○	○	○	○
			41055	3	MA20C12K	原価計算論	講義	30	2	2		○	○	○	○	○	○	○
			41056	3	MA20C13K	工業簿記論	講義	30	2	2		○	○	○	○	○	○	○
			41057	2	MA30C12K	管理会計論	講義	30	2	3		○	○	○	○	○	○	○
			41066	2	MA31C03K	租税論Ⅰ	講義	30	2	3		○	○	○	○	○	○	○
			41067	2	MA32C03K	租税論Ⅱ	講義	30	2	3		○	○	○	○	○	○	○
			41061	1	MA21C04K	ファイナンスⅠ	講義	30	2	2		○	○	○	○	○	○	○
			41062	1	MA22C05K	ファイナンスⅡ	講義	30	2	2		○	○	○	○	○	○	○
			41063	2	MA20C14K	金融論	講義	30	2	2		○	○	○	○	○	○	○
			41064	2	MA20C15K	国際金融論	講義	30	2	2		○	○	○	○	○	○	○
			41065	1	MA20C16K	証券市場論	講義	30	2	2		○	○	○	○	○	○	○
	地域イノベーションコース	ビジネスエコノミクス系	40016	1	MA10C04K	マクロ経済学入門	講義	30	2	1		○	○	○	○	○	○	○
			40015	1	MA10C05K	ミクロ経済学入門	講義	30	2	1		○	○	○	○	○	○	○
			41038	2	MA20B01K	ビジネスエコノミクス入門*	講義	30	[2]	2		○	○	○	○	○	○	○
			41039	2	MA21C05K	ビジネスエコノミクスⅠ	講義	30	2	2		○	○	○	○	○	×	○
			41101	1	MA32C04K	ビジネスエコノミクスⅡ	講義	30	2	3		○	○	○	○	○	×	○
			41102	1	MA30C13K	国際貿易論	講義	30	2	2		○	○	○	○	○	○	○
			41103	1	MA20C17K	医療経済学	講義	30	2	2		○	○	○	○	○	○	○
		地域マネジメント系	41034	1	MA31C04K	地域産業経営論Ⅰ	講義	30	2	3		○	○	○	○	○	○	○
			41035	1	MA32C05K	地域産業経営論Ⅱ	講義	30	2	3		○	○	○	○	○	○	○
			41120	1	MA30C14K	観光ビジネス論	講義	30	2	3		○	○	○	○	○	○	○
			41098	2	MA30C15K	地域ブランド論	講義	30	2	3		○	○	○	○	○	○	○
			41036	3	MA20C18K	公共経済論	講義	30	2	2		○	○	○	○	○	○	○
			41030	2	MA30C16K	ソーシャルビジネス論	講義	30	2	3		○	○	○	○	○	○	○
			41085	2	MA20C19K	公共経営特講	講義	30	2	2		○	○	○	○	○	○	○
		ビジネスコミュニケーション系	41068	1	MA11C02K	ビジネスコミュニケーションⅠ	講義	30	2	1		○	○	○	○	○	○	○
			41069	1	MA12C03K	ビジネスコミュニケーションⅡ	講義	30	2	1		○	○	○	○	○	○	○
			41070	2	MA20C20K	外書講読	講義	30	2	2		○	○	○	○	○	○	○
			41104	1	MA20C21K	ビジネス英語	講義	30	2	2		○	○	○	○	○	○	○
			41105	1	MA30C17K	時事英語	講義	30	2	3		×	×	×	×	×	×	×
			41076	2	MA10C06K	TOEFL/TOEIC集中講座	講義	30	2	1		×	×	×	×	×	×	×
		フィールドスタディ系	41106	1	MA20C22E	グローバルビジネス演習	演習	30	2	2		×	×	×	×	×	×	×
			41107	1	MA30C18E	地域マネジメント演習	演習	30	2	3		×	×	×	×	×	×	×
			41108	1	MA30C19E	地域インターンシップ	演習	30	2	3		×	×	×	×	×	×	×
		特別講義	41079	1	MA21C05K	経営特講Ⅰ	講義	30	2	2		○	○	○	○	○	○	○
			41080	1	MA22C06K	経営特講Ⅱ	講義	30	2	2		○	○	○	○	○	○	○
			41081	1	MA23C01K	経営特講Ⅲ	講義	30	2	2		○	○	○	○	○	○	○
			41109	1	MA40C01S	卒業研究			4	4		×	×	×	×	×	×	×

＊は選択必修科目。指定４科目（８単位）から２科目（４単位）以上を選択。

他学科・他学部科目履修の可否は、各学科カリキュラム表に記載されている。○が付いているものは基本的に履修が可能であり、卒業要件単位となる。ただし、授業内容と授業形式によっては人数に制限があるため、担当教員の了解を受ける必要がある。

なお、履修登録できない科目のほとんどは、①同種の科目が自学科用にある場合か、②学科必修の科目等で他学科学生を受け入れる余地がない場合に当てはまる。

「茨城キリスト教大学データサイエンス教育プログラム」実施体制

委員会等	役割
教務委員会	運営責任者
データサイエンス小委員会	プログラムの改善・進化
授業改善委員会	プログラムの自己点検・評価

本学では、データサイエンス小委員会としてプログラムの開発・改善・進化の提言を担う体制を構築しました。データサイエンス小委員会はプログラム推進の観点から履修状況や学修状況の評価・分析を授業改善委員会等と協力して行います。教務委員会はデータサイエンス小委員会からの提言内容をもとに、全学カリキュラムの調整を行いプログラムの改善を行います。

茨城キリスト教大学教育課程の編成・運用・改善に関する規程

2015 年３月 19 日合同教授会承認
2018 年６月 19 日合同教授会承認
2023 年４月 18 日合同教授会承認

（総則）

第１条　学則第１１条の規定に基づき、本学教育課程の編成・運用・改善に関する事項を次のとおり定める。

（教育課程の編成と教育課程評議会）

第２条　本学教育課程を再編成（改定）するとき、その原案を整備するため、本学に教育課程評議会を置く。

２　教育課程評議会は、学長が学則第 10 条に定める教育課程の再編成を必要と判断するときに招集し、学長がその議事を司る。

３　教育課程評議会は、次の各号に基づいて学長が受理する素案について、これを教授会審議のための正規原案とするため、学長に対し意見を述べることを本務とする。

（１）全学教養課程の再編成素案（改定素案）は、別に定める『全学教養課程の編成と運用に関する規程』に基づき、全学教養課程会議の審議を経て全学教養課程センター長が学長に提出するものとする。

（２）学科専門課程の再編成素案は、当該課程を有する学科会の審議を経て、その学科主任が当該学部長に提出するものとし、さらに当該学部長が必要な調整を経て学長に提出するものとする。

（３）資格課程の再編成素案は、教職課程については別に定める『教職課程委員会規程』に基づき教職課程委員会の審議を経て教職課程委員長が、その他の資格課程については本規程第４条に定める教務委員会の審議を経て教務委員長（学務部長）が学長に提出するものとする。

（４）前三号の再編成素案を提出する者は、事前にその法令関係や原案体裁等に関わる事務的助言を学務課長その他の事務職員より得るものとする。

４　教育課程評議会は、次の教育職員および事務職員をもって構成する。

（１）学長・副学長
（２）各学部長・各学科主任・専攻主任
（３）全学教養課程センター長
（４）学務部長・学務部長が必要と認める学務部事務職員
（５）事務長
（６）その他、学長が出席を要請する者

第３条　前条に定める教育課程評議会を経て学長が整える全学教養課程の再編成案は、『全学教養課程の編成と運用に関する規程』に基づいて合同教授会の審議に付し、その意見に基づいて学長がこれを裁定する。

２　前条に定める教育課程評議会を経て当該学部長が整え、学長が承認した学科専門課程の再編成案は、当該学部長が当該学部教授会の審議に付し、その意見に基づいて学長がこれを裁定する。

３　前条に定める教育課程評議会を経て学長が整える資格課程の再編成案は、その内容に応じて学長の指示する者が、学長の指示する教授会の審議に付した上で、その意見に基づいて学長がこれを裁定する。

（教育課程の運用と教務委員会）

第４条　本学教育課程の運用については次のとおりとする。

（１）全学教養課程については、『全学教養課程の編成と運用に関する規程』に基づき、学長の指導・監督のもと全学教養課程センターがその運用を担うものとする。

（２）学科専門課程については、当該学部長による指導・監督のもと、各学科会がその運用を担うものとする。

（３）資格課程の運用については、教務委員長（学務部長）による指導・監督のもと、教職課程については教職課程委員会が、その他の資格課程については教務委員長が要請または編成する組織がその運用を担うものとする。

（４）前三号に定める運用の事務は学務部が所管する。

第５条　前条に定める教育課程運用の全学的な調整を図るための組織として、本学に教務委員会を置く。

２　教務委員会は次の教育職員および事務職員をもって構成する。

（１）各学科および全学教養課程センターが選出する教務委員

（２）学務部長

（３）学務副部長

（４）学務課長

（５）その他、学務部長が必要と認める者

３　教務委員長は学務部長が兼務する。

４　教務委員会は教務委員長が招集して議事を司る。

５　教務委員会の具体的な職務は次のとおりとする。

（１）教育課程全般の運用状況や履修者に関わる相互情報共有、意見交換、調整および対応

（２）学事暦案、履修規程・試験規程等の改定原案等、教育課程の運用上必要となる教授会上程学長原案の素案作成と学長に対する提出

（３）卒業判定資料や各種関連規程等、教育課程の運用上必要となる教授会原案の作成と教授会上程

（４）教育課程の運用上、全教職員に報告する必要のある教授会資料の作成と上程

（５）カリキュラム・ポリシーやディプロマ・ポリシー等、学部長または全学教養課程センター長が決する事項の改定発議
（６）「履修要覧」に記載する事項の調整
（７）時間割編成に関わる方針の確認または改定
（８）教員の授業担当に関わる方針の確認または改定
（９）予算編成方針および編成作業、執行状況等の確認
(10) 各教務委員と学務部が個別直接的に協議して運用する事項の確認または改定
(11) 学務部に専決権を委任する運用事項の確認または改定
(12) 法令改定に関わる情報の共有と対応
(13) 教育課程の運用に資する各種補助金取得のための準備と申請
(14) その他、教育課程運用の全学的な調整のため、学長が教務委員会の職務とする事項

６　教務委員会は、前項の職務に関する細部事項について、これを次代の委員会に引き継ぐことを目的とする「教務委員会内規」を整えるとともに、その改定の都度、これを学長に提出するものとする。

７　教務委員会にデータサイエンス小委員会を置く。

（教育課程の改善と授業改善委員会）

第６条　教育課程の改善に資する施策を講ずるための組織として、本学に授業改善委員会を置く。

２　授業改善委員会の具体的な職務や構成等については、『茨城キリスト教大学授業改善委員会規程』において別に定める。

（本規程の改定）

第７条　この規程の改定は、合同教授会の審議を経て学長がこれを行う。

附　則

１　この規程は 2015（平成 27）年 4 月 1 日より施行する。
２　この規程は 2018（平成 30）年７月１日より施行する。
３　この規程は 2023（令和 5）年 4 月 1 日より施行する。

「茨城キリスト教大学データサイエンス教育プログラム」実施体制

委員会等	役割
教務委員会	運営責任者
データサイエンス小委員会	プログラムの改善・進化
授業改善委員会	プログラムの自己点検・評価

本学では、データサイエンス小委員会としてプログラムの開発・改善・進化の提言を担う体制を構築しました。データサイエンス小委員会はプログラム推進の観点から履修状況や学修状況の評価・分析を授業改善委員会等と協力して行います。教務委員会はデータサイエンス小委員会からの提言内容をもとに、全学カリキュラムの調整を行いプログラムの改善を行います。

茨城キリスト教大学授業改善委員会規程

2018 年７月２日常任理事会承認

（目的）

第１条　茨城キリスト教大学授業改善委員会（以下、委員会）は、本学で実施される全授業の内容および指導方法の向上を目的とし、学長直属の機関として設置される。

（委員の選出と任期）

第２条　各学科はそれぞれ１名の委員を選出する。

２　各学科から選出される委員の他に、学長は本学教授会構成員もしくは非構成員より委員を任命することができる。

３　委員の任期は２年とする。

４　委員長は、学長が委員の中から指名する。

（委員会の職務）

第３条　委員会は第１条の目的を遂行するために以下の職務を行う。

１）学生による授業評価の実施

２）各学科による授業改善活動の支援および点検

３）各学科で実施される授業の内容および指導方法等に関する提言

４）各学科による授業改善活動についての各学部長および学長への報告

５）学長が第１条の目的のために委嘱する事項

（委員会の開催）

第４条　委員長は第３条に規定される職務を遂行するため、必要に応じて委員会を開催しなければならない。

（所管事務部署）

第５条　第３条に規定される職務を遂行するための予算は、毎年度各学部庶務課予算として計上し、その管理・執行責任者は事務部長（または事務次長）とする。

２　事務部長（または事務次長）は、学務課長および学務部職員との連携の下、委員会の事務的業務を円滑に遂行する。

（規程の改定）

第６条　本規程の改定は合同教授会の議を経て行う。

附　則

１　本規程は、2008 年４月１日より施行する。

２　本規程は、2012 年４月１日より施行する。

３　本規程は、2018（平成 30）年７月１日より施行する。

茨城キリスト教大学データサイエンス教育プログラム取組概要

■プログラム導入の目的

ITリテラシーを培う人材の確保は、地域企業としても喫緊の課題となっている。本プログラムを機能させることで、地域が求める人材を本学から輩出し、地域に開かれた大学として貢献していく。

■本プログラムを通して学修できる内容

- データから価値を創出する一連の課程に関する基礎知識
- 数理・データサイエンス・AIが、社会変化に深く寄与しているものであり、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るものであること
- 活用にあたって必要となる情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項
- 「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法

■データサイエンスに関連する科目群

【必須の学修内容を含む科目】

- ITビジネス論
- 情報システム論
- 経営情報論
- ビジネスリサーチ

【関連する学修内容を含む科目】

- はじめての統計学
- 経営特講Ⅳ／情報技術基礎
- 情報システム演習
- オペレーションズ・リサーチ

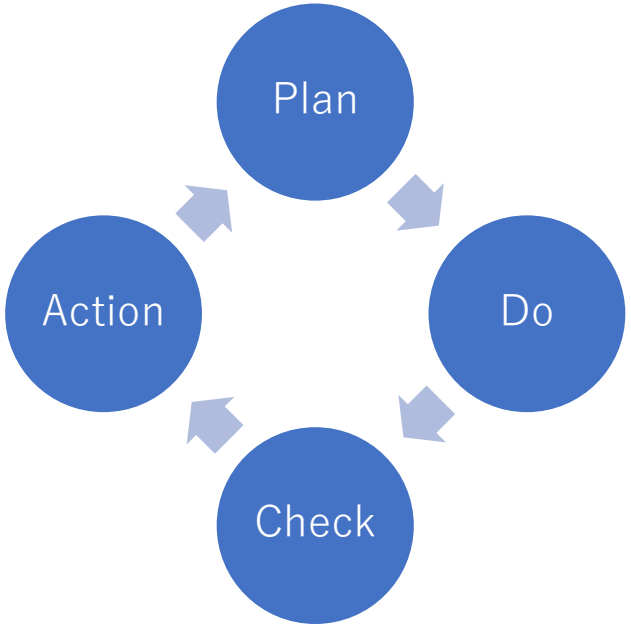
本学経営学部経営学科には、求められる教育内容を含んだ専門科目があり、それら科目をベースとした教育プログラムを策定

科目	主な内容
ITビジネス論	身近なインターネットを活用したビジネスモデルを中心に、AI活用の現状から今後の展望などを学ぶ。
情報システム論	情報システムの基礎知識から、ICTの活用、システム化の施策と計画及び設計、システムの運用管理、業務アプリケーションの選定から活用、そして得られた情報の活用などを学ぶ
経営情報論	データの活用が重要になっていること、データ活用に対応する情報技術や企業の変革についても理解を深める。
ビジネスリサーチ	アンケートの種類から、企画、目的設定、そして実施や分析などの一連の流れを理解し、基礎知識を理解する。実際にGoogleフォームを使って、アンケートを作成し、分析する。
はじめての統計学	どのような領域においても共通する統計学の基礎について、演習を取り入れながら解説する。
経営特講Ⅳ／情報技術基礎	社会におけるIT利活用の動向を主に取り扱い、情報技術を活用する上でもって欲しいITに関する一般教養を学ぶ。
情報システム演習	今後DXが進展していく中で対応していくために、業務の自動化として注目されているRPAの利用、CMSを活用したWebサイト作成について学ぶ。
オペレーションズ・リサーチ	問題の中には、科学理論と経験則を組み合わせることで、解決できる事柄も多くある。数学モデルによる意思決定の方法や問題解決の方法について学ぶ。

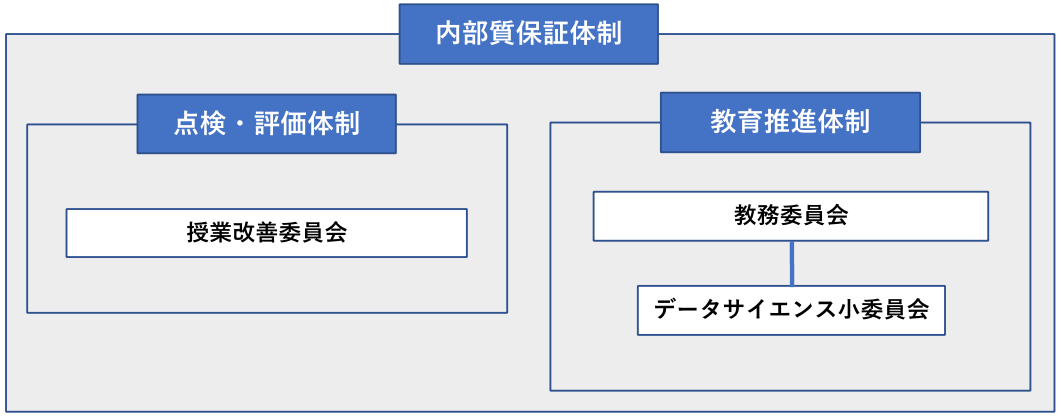
茨城キリスト教大学データサイエンス教育プログラム補足資料１

■実施体制

委員会等	役割
教務委員会	運営責任
データサイエンス小委員会	プログラムの改善・進化
授業改善委員会	プログラムの自己点検・評価、分析



■Plan
データサイエンス小委員会がプログラムを開発し
教務委員会に提言
■Do
教務委員会が全学展開を主導
■Check
授業改善委員会が学修状況の点検・評価および分析
■Action
履修状況、学修状況の評価・分析を踏まえ
データサイエンス小委員会がプログラムを改善・進化



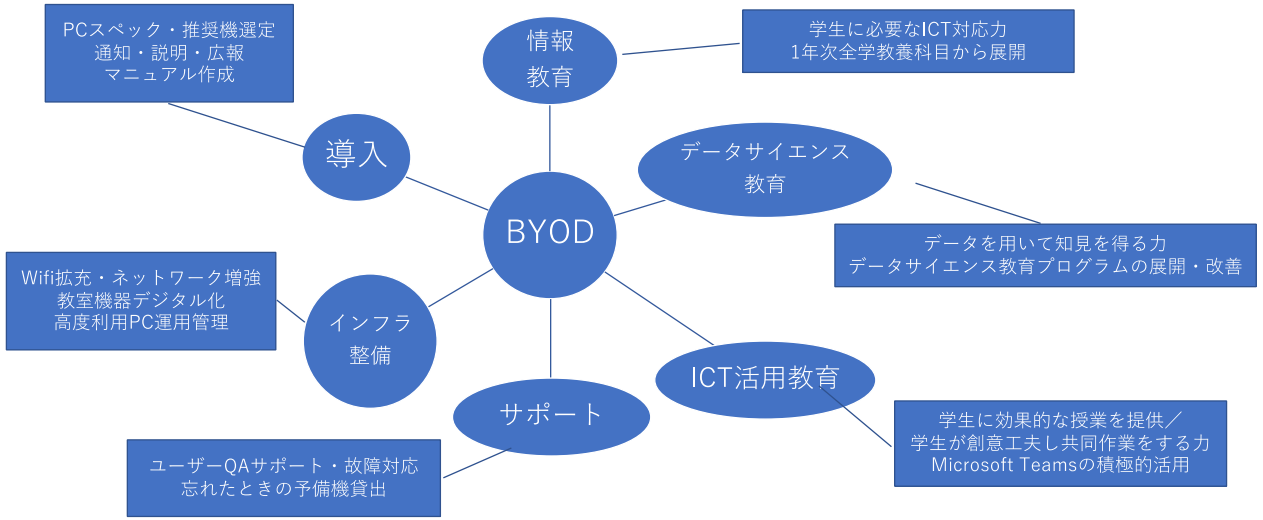
■データサイエンス教育の強化施策

- 基礎的学習項目に関しては、令和6年度から全学教養課程科目として実施を予定している。新たな関連科目を設定するとともに、データサイエンス分野に接しやすくする。
- 令和5年度から、大学教育を通じて身につけた基礎力の測定・育成するプログラムを導入している。今後、このアセスメントプログラムでの測定結果も参考にして学修成果の可視化につなげる。

茨城キリスト教大学データサイエンス教育プログラム
補足資料２

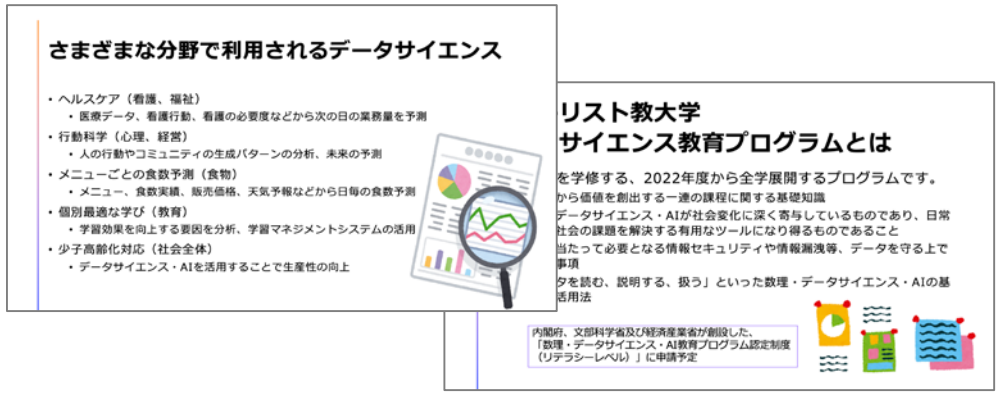
■学修環境

- 本学は、2022年度から全学的にBYODを活用した学修を開始している。
- 本学は、以前より在学期間中、Microsoft Office および ウイルス対策ソフトを無償でインストール・利用することができる。
- 授業においては、Microsoft Teamsを活用して、各科目で学修内容の予習・復習、科目内での小テスト、資料の共有などが行なわれており、授業時間外でも学修内容の確認ができる体制が構築されている。また、学修内容に対する質問も、この仕組みの中で行うことが可能である。
- プログラム全体に関する質問に関してはデータサイエンス小委員会で受け付ける。



■情報公開

新入生履修ガイダンスおよび在校生向けガイダンスにおいて、データサイエンス教育プログラムについて説明



本学HPにおいてプログラム内容を公開
https://www.icc.ac.jp/about/disclosure/No.10/data_science.html